



平成26年
2月発行

第1号

始良市教師力 ブラッシュアップ

特集内容

写真で語る道徳教育の 実践事例

100本以上の
実践事例を掲載
しています。



1 校長先生の取組

錦江小学校 帖佐小学校 重富小学校 山田小学校 西浦小学校

2 リーフレット

「道徳の時間の充実をめざして」

3 実践事例

柁城小学校・錦江小学校・竜門小学校・永原小学校・加治木小学校・帖佐小学校・建昌小学校
三船小学校・重富小学校・山田小学校・北山小学校・始良小学校・西始良小学校・蒲生小学校
漆小学校・西浦小学校

加治木中学校・帖佐中学校・重富中学校・山田中学校・蒲生中学校

4 モラリティ・インプルーブメント推進事業実践発表校の取組

平成24年度 蒲生小学校 加治木中学校

平成25年度 重富小学校

＜巻末＞実践事例提供者一覧



道徳の時間指導法開発委員会
始良市教科等部会道徳部会
始良市教育委員会

Ⅱ 実践事例

1 校長先生の実践

2 道徳の時間の実践

- (1) 小学校:低学年
- (2) 小学校:中学年
- (3) 小学校:高学年
- (4) 中学校:全学年

3 道徳教育の実践

センダンを眺め、思って！

全校朝会における校長講話



- 対象学年 小学校全学年
- 内容項目 希望・助け合い・忍耐
- 指導の場 全校朝会
- 資料名 「錦江の子は」

運動場のセンダンを眺めながら考えて欲しいと思います。一つめは，“センダンのように大きくなるぞ，たくさんの葉や実をつけるぞ”と考えて欲しいです。二つめのことです。センダンのこの箇所から別の種類の木が生えてきています。皆さんが，仲良くするとことの大切さを考えてくれることを望みます。三つめは，センダンは，大きな怪我をしています。でも，負けてたまるかというセンダンの木の強い気持ちと皆さんのガンバレ・マケルナという応援が大切です。

皆さんが，このセンダンを眺める時に，「大きく・仲良く・負けるな」という言葉を思っで欲しいです。

心のノートで校長講話～全校朝会での実践～



- 学 年 全学年
- 内容項目 友情
- 活動のねらい

運動会の練習や運動会当日の友達と協力できたことを称賛し，子どもたちに達成感を味わわせる。

実践の概要

運動会終了後の全校朝会の校長講話で心のノートの「友だちっていいよね」を紹介した。練習がきつかったり，失敗したりしたとき，友達が励ましてくれたり，応援してくれたりすることを思い出させ，友達のよさや友情に気付かせた。この他にもチャレンジする意欲，我慢する心，思いやりや親切，感謝の心などに気付かせることができた。

「見える気持ち」について

おはようございます。毎朝寒い日が続きますね 寒い日には温かいものが欲しいですね。

皆さん今週は12月10日の「人権デー」にあわせて、「人権週間」として、ビデオを見て話し合ったり人権標語を作ったりしながら人権や差別について考える学習をしていることと思います。日本国内でも12月4日～12月10日の1週間を「第65回人権週間」として目標は「みんなで築こう 人権の世紀」～考えよう相手の気持ち 育てよう思いやりの心～ということでいろいろな取組が行われています。人権とは自分を大切にすることです。同じくらしい気持ちでお友達や他の人を大切にすることです。皆さん一人一人はお父さん・お母さんにとって大事な宝物です。永原小学校にとっても永原地域にとっても皆さんは大事な宝物なんです。もちろん鹿児島県にとっても日本の国にとっても皆さんは大事な宝物です。だからこそ自分やお友達を大切にしないといけません。差別とは人を馬鹿にすること、人を仲間はずれにすること、人をいじめることです。「いじめや差別は卑怯で卑しい行為です。」「卑怯な人間」「卑しい行為をする人間」は他の人から軽蔑されます。「卑怯」や「卑しさ」を憎み、許さない人になって欲しいと願っています。みなさんの中にはそういった差別の心はないと校長先生は信じています。

ところで「こころ」は見えますか。だれにも見えます。でも「こころづかい」は見えます。同じように「思い」は見えますか。だれにも見えます。でも「思いやり」は誰にでも見えます。あたたかいこころもやさしい思いもおこないになって初めて見えます。この前も姿や形についてお話ししましたが、みなさんの温かい気持ちややさしさを姿や形にして表してほしいと思います。今年流行語大賞に選ばれた「お・も・て・な・し」も姿や形として表して心遣いや思いやりとして伝わります。寒い毎日「温かい心ややさしさ」で包まれると温かい毎日になると思います。

校長先生はその第一歩は、何と言っても毎日の生活の中でのあいさつや、「ありがとう」「ごめんなさい」といったお友達や周りの人とかかわり方や社会生活の中での基本となる一言がきちんとと言えることだと思います。その一言に「こころづかいや」「思いやり」の気持ちが込められると良いと思います。その一言にお辞儀が加わるともっとも気持ちを通じると思います。皆さんの中にも心や思いのこもった気持ちの良いあいさつやお辞儀のできる人がたくさんいます。お辞儀の仕方練習してみてください。

第二歩、第三歩についてはまたそれぞれの学年やお家でも話し合っ自分のできる姿や形に表してほしいと思います。

永原小学校には、皆さん全員が必要なのです。だから、先生方は皆さん一人一人を大切にします。皆さんも、自分は永原小学校にとって大切な一人なのだという自信を持ってください。永原の人たちにとっても皆さんは大事な宝物です。同じように、他の人も永原小学校にとって大切な人だということを知ってください。大事な宝物だということを知ってください。そうすれば、相手を思いやる心や優しい心づかいの花がいっぱいに咲き乱れ、絶対にいじめや差別などは起こりません。みんな協力して明るい学校を作りましょう。温かい毎日に行きましょう。

心優しき子ら（保護者向けの手紙より）

本日は、お子さまをほめていただきたいことがあり、お便りしました。

今春、本校に入学されたお子さんの中にMさんという車椅子で学校生活を送らなければならないお子さんがいらっしゃいます。

そのMさんのお母さんが今朝校長室を訪ねて来られ、「最近、6年生の女の子たちが毎朝Mを迎えに来てくれるんです。」と、うれしそうに話してくださいました。

わざわざ校長室まで来室され、このことを伝えに来られるくらい嬉しかったのであろうと思います。素敵な子どもたちのおかげで、私まで幸せをいっぱいいただきました。

この素敵な女の子たちは3人いて、そのうちの一人がお子さんだということが分かりました。

先日の全校朝会では、同じ学校で生活する子どもたちに、Mさんのことを分かってもらいたいと願い、「車椅子で学校生活を送るMさんのことを温かい目で見守り、応援してほしい」というような話をしたのですが、さっそく実践してくれたお子さん方。

こんな素敵な優しい子に育てていただき、そして、重富小に通わせていただき、心から感謝します。ありがとうございます。

どうか、ご家庭でもお子さんをほめてあげてください。

お子さん方の優しさや思いやりが周囲にもどんどん広がり、素晴らしい学校になるであろうと心が弾み、このようなお手紙をしたためた次第です。



「道德」とは？ （校長閑話「剣の平」第12号より一部修正抜粋）

校長初任校でのことです。

子供たちと作業をしていたら、「前の先生は、道德の授業をほとんどしなかったよ。」と話してくれました。「えっ、うそでしょ。」と確かめると、「ううん、ほんとだよ。ねえ。『朝の会でいつも道德の授業みたいなことばかり話しているから、道德の授業はしなくていい』と言ってたよね。」と、友達同士で頷き合っていました。

法的に定められた授業をきちんと行わない教員は、公教育に携わっているという責任や自覚がないと指摘されても仕方ありません。

そもそも「道德」とは何なのか。

「道德教育の諸問題」という古い本には、次のようなことが書かれています。

人間の生活は、いかなる場合においても、なんらかの意味で社会的な規制を余儀なくされる。そこに自ずから個人の行動を拘束して社会生活の秩序を維持するためのきまりが生まれる。道德は、このような社会生活を円滑に行うためのきまりである。われわれが他の人間とともに社会生活を営んでいく上において、自分勝手なことはできない。相手と仲よくしていくには一つのルールがなくては困るので、一つの約束として人間が作り出したものである。道を反復して人々が実践体得するとき、その結果、身についたものとなるが、これが個人の得、すなわち徳である。

この文章から「・・・なときは、・・・すべきである。」「・・・なとき、・・・すれば人とのいさかいが起きる。だから、・・・した方がよい。」というように、日常生活の実践を通して、人が人としての生きる道を学び得たものが、道德の語源のようです。また、「道德」の「徳」という字は、恩恵という意味があります。

道德の授業をカットしてしまうことは、正に「人としての道を学ぶことで得る恩恵」を奪ってしまうことにならないのかと思うのです。

読書月間に寄せて（動物に学ぶ）

10月1日から10月31日まで読書月間です。読み聞かせや朗読発表会、おはなし会、読書郵便、読書感想画コンクールなどが行われています。

今日は、動物が登場する「おすすめの本」を紹介します。

始良市加治木町に棕鳩十記念館があります。棕鳩十全集のお話には、犬・クマバチ・サル・ゾウなどたくさんの動物が登場します。これらの動物たちは、すばらしい勇気や知恵などを持っており読む人に感動を与えてくれます。

また、「ちゃぐりん」という本の中にもゴリラが登場します。そのお話しの1部を紹介します。人間がゴリラから学べることはたくさんあります。たとえば、気持ちや動きをおさえる力。ゴリラはとても強い力を持っているけど、それをおさえることができるのです。また、ゴリラは負けずぎらいです。小さなゴリラも引かないし、相手から視線をそらさない。人間の子どもも負けずぎらいです。でも、負けたくないということと、勝ちたいということは別です。

勝つということは、相手を屈服させ遠ざけることにつながります。そうすると友達ができない。でも、相手に負けないということだったら、相手と対等であればいいわけですから、友達になれます。ゴリラは負けずぎらいだけど、勝とうとはしない。負けないことと、勝つことはちがうのです。ゴリラのような生き方を見直すことも大切です。

読書によって、いろいろな動物からたくさんのことを学ぶことができますので、多くの本と出会ってほしいと思います。

「みんな誰かの役に立っているのです」

本校では「花とポエムと少年消防クラブ」を合い言葉にして、いろいろな活動をしていますね。学校の入り口の県道沿いには小さな花壇に季節の花が植えられ、県道を通る人たちの目を楽しませています。この花はひとりでにきれいな花を咲かせたものではありません。種子を蒔いて双葉、本葉が出たとき黒ポットに移し替え、ある程度大きくなったとき、花壇に定植します。そして定期的に肥料や水やりをしてくれた人のお陰で、きれいな花が咲くのです。

私は朝の読書タイムで「子犬のうんち」という童話を皆さんに読みました。1年生は題名を聞いたとき「えーきたない」とくすくす笑いましたが、話が進むにつれて真剣な顔つきにかわっていきました。「自分は何の役にも立たないと思っていた子犬のうんち、たんぽぽから『きれいな花を咲かせるにはあなたが必要なのよ。』といわれたとき、うれしさでいっぱいでした。」とあるように誰かの役に立っているということを意識できたとき、生きている喜びにかわっていきます。誰もが皆、誰かのために、何かの役に立つようにこの世に生まれてきているのです。これからいろいろな経験をして知識や知恵を身に付けて、自分の事だけでなく、他人のことも考えられる人になってください。

(参考文献)「子犬のうんち」 クォン・シジョンセン 文
チョン・スンガク 絵 ピョン・キジャ 訳 平凡社

「心のものさし」ある日の校長講話から

私たちは、ものの長さを測るときに、よく「ものさし」を使います。ものさしは長さを比べたり測ったりするとき、とても便利な道具です。作図では、三角定規や15センチぐらいの定規をよく使います。黒板の横の長さを測るときは、1メートルものさしや巻き尺が便利です。100メートル走のコースを作るときは、巻き尺が便利です。私たちは、測ろうとする長さやその目的によって、より適した「ものさし」を使いながら生活しています。

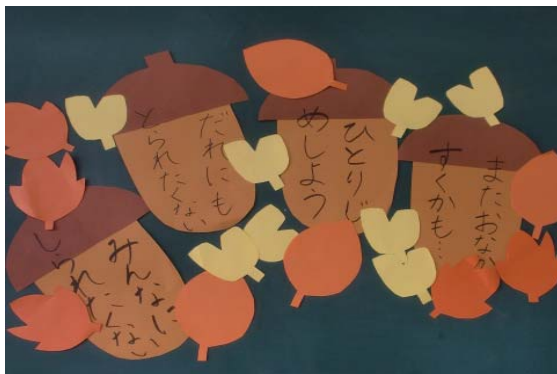
さて、私たちは、ふだん相手(友だち)のよさや気持ちを理解しようとするとき、特に意識はしていませんが、自分の持っている心の「ものさし」を使っているような気がします。

一つのものさしだけで、Aさん、Bさん、C・・・さんのよさや気持ちを理解しようとする人と、いくつものものさしを通して、相手(友だち)のよさや気持ちを理解しようとする人がいるとします。どちらがよいかは、決して一概には言えることではありません。

しかし、心の「ものさし」をたくさん準備して、人の心や気持ちを分かってあげようと努力することが、とても大切なことだと思います。

自分のことを見つめる「ものさし」も、また大切です。一つのものさしだけで自分を見て、「自分は、だめだなあ」と感じている人はいませんか。もっとたくさんものさしで、自分のことを考えてみましょう。これまで、自分では気づかずにいるよさがきっと見つかるはずです。それが、あなたらしさだと思います。でも、心のものさしは、どこにも売ってはいません。それは、やっぱり自分で作っていくものではないかなと思います。

自己を見つめ、自他とのかかわりを深める中で、道徳的实践力をはぐくむ道徳の時間の指導の在り方 — 板書の工夫 —



- 学 年 第1学年
- 内容項目 2-(3) 友情・信頼、助け合い
- 資 料 名 「くりの実」

子どもの反応

- ◆ 登場人物になりきって、主人公の気持ちを考えることができた。場面の状況や主人公の気持ちをしっかり理解させた上で、中心場面につなげることができた。

具体的な働きかけ

- ◆ 子どもたちがより考えを深められるように、資料中の主人公の弱い気持ち表れる場面と同じ状況を作った。子どもたちが発表した弱い気持ちをどんぐりの実を書いて主人公のきつねと同じように葉っぱで隠すことで、きつねの弱い気持ちに気付かせた。

ちょっと一言

- ◆ 資料を読むだけではなく、具体物を用いて場面状況をつかませると子どもたちの考えを深めさせることができる。また、弱い気持ちを出させた後に類型化して板書することにより、共感しやすくなる。

相手の気持ちになって、友だちとわけへだてなく仲良くしていこうとする心情を育てる。



子どもの反応

- 役割演技を通して、友達の気持ちを考える良さに気付いていました。
- お面をつけて盛り上がっていました。

- 学 年 第1学年
- 内容項目 2-(3) 友情・信頼・助け合い
- 資 料 名 二わのことり

具体的な働きかけ

- 1 これまでの友だちとの関わりを振り返る。
- 2 誕生日に一人ぼっちのやまがらを思う主人公の気持ちを吹き出しに書かせる。
- 3 役割演技をとおして、主人公の気持ちを考えさせる。

ちょっと一言

- 1年生は役割演技が大好き！
- 自分を表現できる学級づくりを心がけています。

児童が自分の考えをもつことができるようになるための工夫

【書く活動の工夫】

児童が自分の考えをもつことができるようにするために、こころの様子を色（青色と赤色）で表現する。視覚的にとらえさせることで、自分の考えをイメージしやすくさせる。また、吹き出しに自分の気持ちを書くことで、思考を深めることができるようにする。誰のどのような場面での気持ちを考えるのかは、教師が発問によって伝える。

○内容項目

1－(2) 勤勉・努力

○資料名

りょうくんとーりん車



【表現活動の工夫】

資料の登場人物になり、即興的に演技をする。（役割演技）演技は、資料によって、教師と児童で行ったり、児童同士で行ったりする。登場人物になりきって演技をすることで、実感的な理解につながると考えられる。また、演技をしたあとに、なぜそのような演技をしたのか尋ねたり、気持ちを聞いたりすることで、児童の考えを他の児童と共有することができる。

○内容項目

1－(4) 誠実・明朗

○資料名

金のおの



ワークシートに、こころの様子を色で表現することで、自分の考えをなかなかもつことができなかった児童が、吹き出しに気持ちを書くことができるようになってきた。また、資料に出てくる人物になりきって役割演技をすることで、自分の考えをもつことができ、その気持ちを表現することができるようになってきている。

歌から始まる導入の工夫

○学 年 第1学年

○内容項目 2-(2) 思いやり・親切

○資 料 名 「めだかのめぐ」

具体的な働きかけ

本時で使用する資料に出てくるメダカをブラックボックスに隠して、中にある生き物クイズをした後、資料の主人公がめだかであることを伝える。資料の内容がめだかの学校であることを話す。



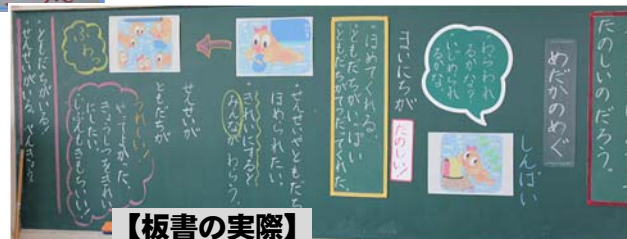
資料に出てくるめだかを実際に準備し展示。



◆ めだかの学校をギターで弾き、担任も児童も一緒に歌う。

子どもたちの反応

ブラックボックスクイズで盛り上がり、その後、めだかの学校を歌うことで、児童の興味関心を高め、明るい雰囲気での授業を始めることができた。

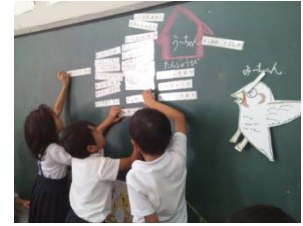


【板書の実例】

自分の考えを明確にさせるためのネームプレートの活用



ネームプレートを移動させる
子どもの様子



具体的な働きかけ

- 学 年 第1学年
- 内容項目 2ー(3) 友情・信頼、助け合い
- 資料名 二つの小とり (みんなのどうとく)

友だちと仲良くする気持ちを育むには、友だち同士の関わりを通して考えることが大切である。そこで資料の中の、みそさざいになりきって、自分だったらどうするか考えさせた。視覚的に立場が分かるようにネームプレートを活用した。

発問 ネームプレート 活用場面

- ① みそさざいは、最初どうするか迷っています。みんなだったらどうする。
- ② みそさざいは、ヤマガラ君のことが気になって迷っています。みんなだったらどうする。
- ③ 泣いて、喜んでくれた時、みそさざいは、どんな気持ちになった。
- ④ 友だちとどのように過ごしたいですか。

子どもの反応

自分だったらどうするか、みそさざいの気持ちになって考え、ネームプレートを移動させ、友だち同士の関わりを考えることができた。また、途中で、プレートを移し直したいと発言する児童も見られ、積極的に授業に参加し、考えたと感じた。ただ、理由を言わせしたが、そこをうまく板書に表せなかった。

役割演技を通して、思いやりの心を持ち、親切にするよさを知る取組



- 学 年 第1学年
- 内容項目 2ー(2) 思いやり、親切
- 資料名 はしの上のおおかみ (みんなのどうとく)

具体的な働きかけ

思いやりの心を持つことの大切さを感じさせ、その上で、親切に行動できるように、役割演技を取り入れた。実際に親切に行動したくても、できないことがある。その揺れる心の動きを乗り越えるために、親切に行動できた後の清々しい気持ちを知る必要がある。

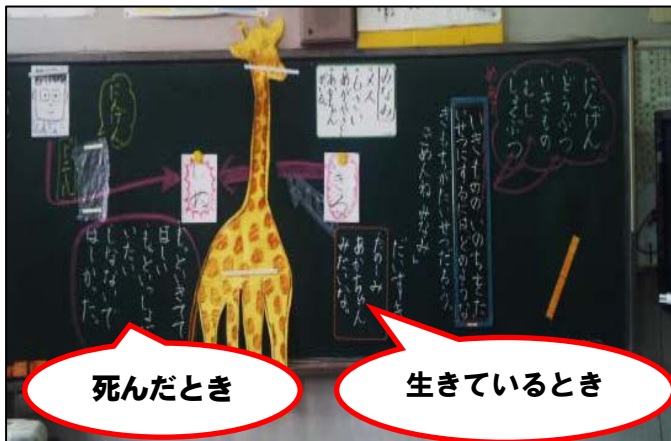
子どもの反応

子どもたちが、役割演技したいと思い、演技した。ただ、お面を被り、真似をすることが中心となり、気持ちを考えたくて演技しているわけではない児童も見られた。今後の課題は、演技しながら価値に関わる気持ちをじっくり考えさせられることだと感じた。

主な発問

- ① うさぎにもどれもどれと言った時、おおかみはどんな気持ちだったろう。
- ② たくさんの動物に、もどれもどれと言った時、おおかみはどんな気持ちだったろう。
- ③ くまに抱き上げられた時、おおかみはどんな気持ちになったろう。
- ④ 友だちに、何か親切にできないか考えよう。

学校行事（体験活動）を生かした学習過程の工夫



- 学 年 第1学年
- 内容項目 3- (2)
自然愛、動植物愛護
- 資料名 ごめんね、みなみ
(みんなのどうとく)

具体的な働きかけ

一日遠足で動物園に行った。その時に、児童が動物を見て嬉しそうにしている映像を見せた。共通体験した動物との様子を提示したことで、動物に対しての気持ちを振り返り、資料に入ることができた。

子どもの反応

みなみちゃん(きりん)に話しかける活動を取り入れた。すると、気持ちが入り、涙を流しながら話をする児童も見られた。ただ、中には楽しそうに活動する児童もいた。価値への自覚化をより高めるために、それまでの基本発問で考えさせておくことが大切だと感じた。

主な発問

- ① みなみが生きている時、みんなはどう思っていたか。
- ② みなみが死んだとき、みんなはどう思っていたか。
- ③ 中心発問⇒ビニール袋のせいで、みなみが死んだことを知り、みんなはどう思ったかな。みなみに話しかけてみよう。
- ④ 身近な生き物に、これからどうしていきたいか考えてみよう。

学校・家庭・地域が協働してつくる道徳の時間

主題名
こまっているもだちに

- 学 年 第1学年
- 内容項目 友情・信頼・助け合い
- 資料名 「くりのみ」

劇場化した板書の工夫



つながるポイント

- 学習したワークシートを家庭に持ち帰らせて、子どもたちの思いを保護者の方へ知っていただくようにしました。ワークシートへ保護者の方からコメントをいただくようにして、子どもの思いを知っていただくようにしました。
- 授業の様子や子どもたちの様子を道徳だより「心のまど」や学年通信・学級通信を通して家庭や地域の方に、伝えるようにしました。子どもたちの心の成長を学校・家庭・地域みんなで共有できるようにしました。



きらきさん見つけた

〈授業後の感想〉

- くりのみをひとつ分けてあげたうさぎさんのように、やさしい心をもてるようになりたいなあと思いました。
- くりのみと一緒にいろいろなやさしい心をきつねさんに分けてあげたことがわかりました。きつねさんとうさぎさんは、前よりもっと仲良くなったと思います。

思いやりの心もち、よりよく生きようとする子どもの育成 ～自己の生き方を見つめる道徳授業をめざして～



- 学 年 第1学年
- 内容項目 1－（1）節度・節制、自立
- 資料名 「しまのおさるたち」（学研教育みらい）

具体的な働きかけ

- ◆ ペープサートを使い劇化して話を進める。また役割演技や動作化を用いて主人公の気持ちを表すことができるようにする。

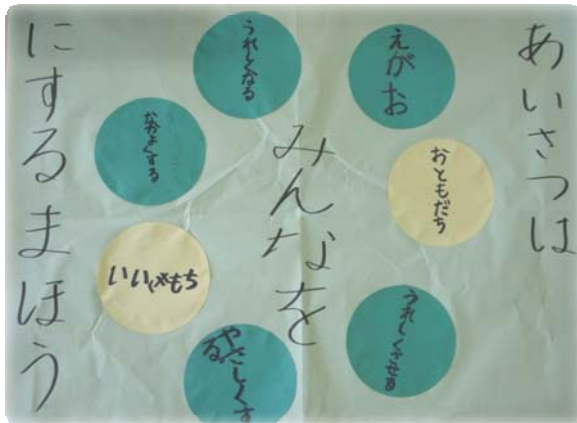
ちょっと一言

- ◆ 教師が発問等を柔軟に行い、子どもたちの考えを引き出したり、子どもどうしの考えをつないだりすることで、児童も考えを整理することができる。

子どもの反応

- ◆ 登場人物の気持ちになって考えることができ、多様な考えが出された。

あいさつはみんなを〇〇にするまほう



- 学 年 複式第1・2学年
- 内容項目 礼儀
- 資料名 まほうのあいさつ

具体的な働きかけ

- お父さん、お母さん、友達に実際に挨拶を試みよう。
- 挨拶したときの顔を覚えておこう。
- 挨拶してどんなことを思った？

★子どもの反応★

- 実際にいろいろな人に挨拶を試みて、みんなの顔が恥ずかしそうに、でも笑顔になった。
- お父さんやお母さんに挨拶することで「できた」と自信が持てた。

★ちょっと一言★

- 子どもたちそれぞれが、挨拶の素晴らしさを少しずつ学んでくれればと感じました。

子ども一人一人の考えを引き出し深めるための表現活動の工夫



ペープサートを媒体にし、自由に表現する

ペープサートの活用により自由に表現した子どもの言葉

- うさぎさんごめんね。わたしは、うそをついたのに。
- つぎにぼくがくりを見つけたら、あげるね。
- ぼくも、うさぎさんみたいにどんぐりをわけよう。

- 第1学年
- 主題名「こまっているともだちに」
- 内容項目 2-(3)友情・信頼・助け合い
- 資料名「くりのみ」(学研)

ペープサートの活用と留意点

- 1 教師がペープサートを使って登場人物を演じる等の資料提示を行い、授業への興味・関心や登場人物への共感度を高める。
- 2 役割演技や動作化等でペープサートを使うことで、子ども一人一人の考えを引き出し、深めるための表現活動の一つとして活用することができる。
- 3 ねらいとする道徳的価値の自覚を深め、多様な意見を引き出すことができるように、教師が状況に応じて適切に関わっていくようにする。

役割演技を通して、道徳的価値観を深める活動の工夫



役割演技をすることにより強い共感を呼び起こす

- 第1学年
- 主題名「しんせつになったおおかみ」
- 内容項目 2-(2)思いやり・親切
- 資料名「はしの上のおおかみ」(学研)

お面を使った役割演技

- 1 登場人物を確認する。
- 2 物語の舞台を黒板に再現し、臨場感あふれるものにする。
- 3 登場人物の気持ちを考え、発表する。
- 4 動物たちのお面をかぶり、役になり切って表現する。
- 5 発表が終わったら、賞賛の拍手を送る。

役割演技のさせ方のポイント

- 1 やりたいという意欲を大切にし、なるべく多くの子どもに活動させる。
- 2 子どもが生き生きと演技できるように、日頃から楽しいクラスの雰囲気づくりに努める。
- 3 必ず捉えさせたい動きや心情を想定し、広がらない場合はフロアーの子どもから出させる。
- 4 資料に出ている台詞にとらわれずに、その子の発想を大事にする。

自分の思いが資料と繋がるためのワークシートの活用について



↑【ワークシート】



↑【道徳コーナー】



↑【人権の旗】



↑【人権の花】

人権同和教育を通し人権感覚の醸成と道徳の生活化を目指し人権の旗と人権の花を作成し全児童の目につくところに掲示している。

○ 学 年 第1・2学年複式学級

具体的な働きかけ

- ① 登場人物と自分が同化できるよう挿絵等を使って場面の様子を把握させた。
- ② ねらいとする価値を担任が明確にしながらも、それぞれの考えを称賛した。
- ③ 自分の考えを文字にしてまとめさせたかったので、量にはこだわらず書くことを促した。
- ④ 子ども同士がお互いの考えを共有尊重できるように、ワークシートは「道徳コーナー」に年間を通して掲示した。

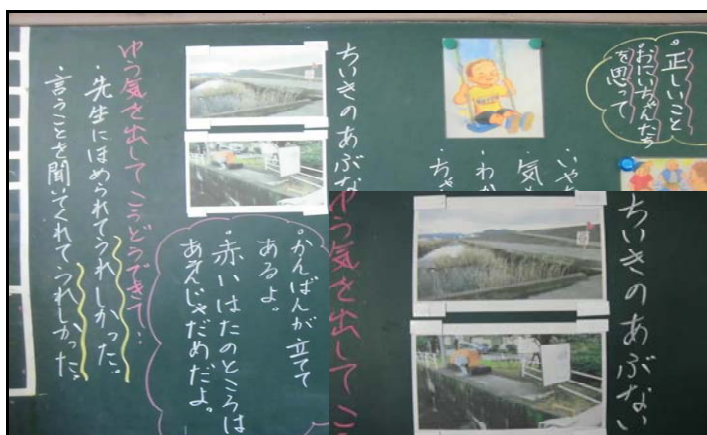
子どもの反応

量にこだわらないせいか、自分の考えを書くようになった。また、お互いのワークシートを読み合いながら良いところを探すことが増えた。

ちょっと一言

書きやすいワークシートを作成するよう心がけた。大変だった。

読み物資料の内容を自分たちの生活に返す手立ての工夫



○学 年 第2学年
○内容項目 1-(3)勇氣
○資料名 「水の公園」

具体的な働きかけ

読み物の価値を自分たちの生活に返す場面で、地域の危険箇所の写真を掲示し、その場所で遊ぼうと誘われたら、という具体的な設定で役割演技を行った。

子どもの反応

担任が遊びに誘う高学年という設定で子どもに演技をさせた。初めは「いやだ。」「遊ばない」というだけの演技であったが、見ている子に感想を聞く中で、どうして嫌かを伝えた方がいいという意見が出され、その後の演技では「看板が立ててあるよ。」等の理由を伝える演技ができた。

指導を行って

実際に地域の中の危険箇所の写真を掲示し、役割演技の場面に設定することで、演技をする上で子どもたちに現実味のある状況をつくることができた。役割演技は、どうしても演技自体を面白がる児童が出るので、遊びを断る場面の表情や言葉の言い方を工夫させる声かけが必要だと感じた。

友達の良いところに目を向けて、互いに助け合っていくことの大切さを理解し、いつでも友達と仲良くしようとする気持ちを考える。



- 学 年 第2学年
- 内容項目 2-(3)
友情・信頼・助け合い
- 資 料 名 こまのプレゼント

具体的な働きかけ

- 1 係や生活班の中でのめめごとを思い出させる。
- 2 資料を読んで二人が分かり合うために必要だったものの見方や考え方を話し合う。
- 3 友達に伝えたい言葉を書かせる。

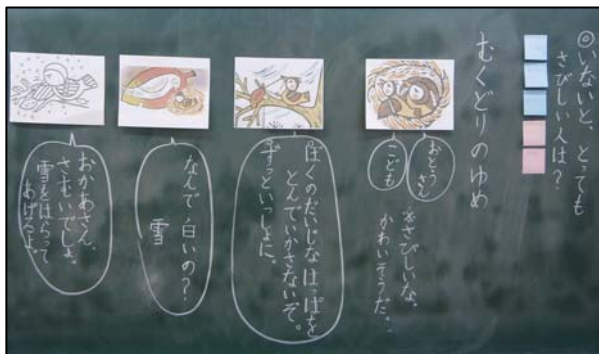
ちょっと一言

- 主人公の挿絵が効果的でした。
- 実物のコマを見せることで、養護学校との交流を思い出していた。

子どもの反応

- 「コマ」を見せることで授業に集中していた。
- 身近な事例だったので意見が多く出ました。

資料を工夫して提示し、道徳的価値の自覚を深める工夫



- 学 年 第2学年
- 内容項目 3-(3) 敬虔
- 資料名 むくどりのゆめ

具体的な働きかけ

- ・ 「いないと、とってもさびしい人は？」の問いかけから、お母さんを引き出し、お母さんがいないむくどりの子どもの心情に迫る。

ちょっと一言

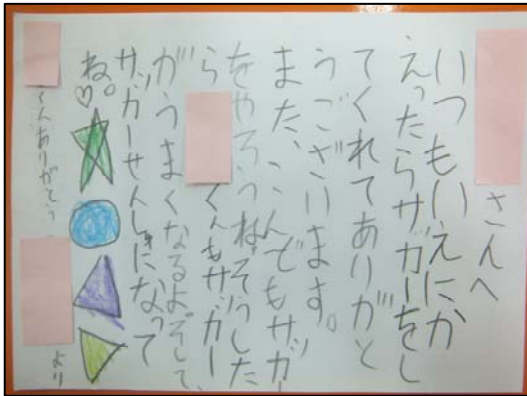
- ・ やはり冬になってから取り扱う。
- ・ 枯れ葉が風に震える音、鳥の羽ばたき音を準備しておく、むくどりの子どもの心情に迫れる。
- ・ 「いないと、とってもさびしい人は？」の問いかけに、弟・妹という答えも意外に多い。

子どもの反応

～むくどりの子どもへの手紙より～

- ・ お母さんがさびしいね。でも、葉っぱのお母さんをまもろうとがんばっていて、すごいね。早くお母さんが帰ってくるといいね。

指導方法の工夫 自分を振り返り考えたことを伝え合うことで価値の自覚を深める



- 第2学年
- 内容項目 2－(3) 友情・信頼、助け合い
- 資料名「きれいな羽」

【具体的な働きかけ】

「道徳の時間はみんなでよりよく過ごすには、どうしたらいいのかを考える時間である。」ということ話を授業を始めた。

意識化の過程で学級の友達と仲良くするためには何が大切かを考えるように方向づけをした。

終末では、「自分も友達に助けられたことを思い出してみよう。」と声をかけ気持ちを高めるようにした。

【子どもの反応】

4月に2年生となり新しい学級や担任に対して不安もあった児童が、くしゃくの気持ちを考えることで、友達と助け合うことの大切さに気づいていた。

くしゃくに似たところはないか、くしゃくは何に気づいたのかを十分に考えさせたことで、自分の思いを素直に友達への手紙に書いていた。児童は、普段は言えないことを手紙で伝える、素直に表現できたことに満足した様子だった。

【ちょっと一言】

写真の手紙は、児童が隣の席の友達に書いたものである。友達のよいところを素直な気持ちで表現していた。手紙をもらった児童も少し照れた表情でうれしそうに手紙を読んでいた。

また、一人の児童のよいところをみんなで付箋に書いて貼り付ける活動もした。

学習内容を理解し、実践へつなげるための授業の工夫（第2学年道徳授業実践）

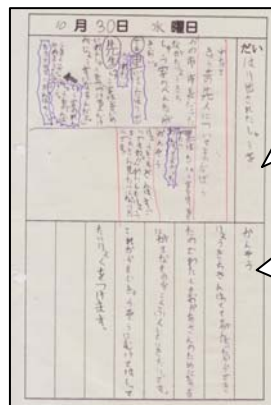


【板書の構造化】

【場面分けからまとめへとつなげる】

教材文を読んだ後、心に残った場面を発表させ、場面分けをする。その後、場面ごとに登場人物の心情を考えていくことで、めあてからまとめへとつなげていく。

【学習の振り返り】



ワークシートの上段は、めあてを書いたり、授業のメモをとったりすることに活用する。

ワークシートの下段は、学習の振り返りとして、感想や自分の思いを書くようにする。

【授業展開の工夫】



【劇化による心情の読み取り】

教材によっては、登場人物の心情をより分かりやすくとらえるために、展開を工夫する。劇化は、人物になりきることで、心情をとらえたり、友だちの演技を見ることで、どんな気持ちを表現しているのか考えたりすることができる。これにより、登場人物の心情の変化を深く考えていくことにつなげている。

【実践へつなげる】

学習の振り返りとして、ワークシートに本時の学習の感想を書かせる。本時の学習を通しての感想だけではなく、今後自分がどうしていきたいかについても書けるように声かけをする。

対話による道徳の時間の工夫

・おれは速いんだから大丈夫。
・間に合わなかったらどうしてくれるんだ。



・そんなにあわてなくてもいいのにね。
・危ないね。
・いやだね。

- 学 年 第2学年
- 内容項目 4-(1) 公徳心, 規則の尊重
- 資料名 めいわくダンプ (学研)

自己内対話を起こすために

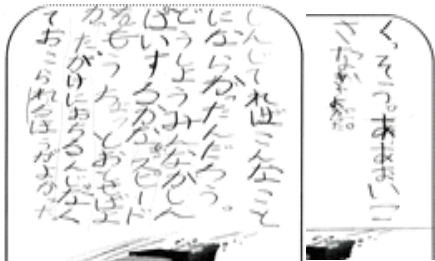
- 自分の考えをもてるようにする。
- 時間を確保する。

他者との対話を起こすために

- 多様な考えと出会うようにする。

《他者との対話》ペープサート

《自己内対話》ワークシート



- ペープサートなどを使って他者と考えを共有することで、子どもたちは自分を振り返り、自己との関わりの中で道徳的価値をじっくりと自覚することができるようになった。



思いやりの心もち、よりよく生きようとする子どもの育成 ～自己の生き方を見つめる道徳授業をめざして～



- 学 年 第2学年
- 内容項目 2-(2) 思いやり・親切
- 資料名 「さんぽ道」(学研教育みらい)

具体的な働きかけ

- ◆ ワークシートに書く内容を精選し、書かせるタイミングを工夫することで、児童が集中して取り組むことができる。

子どもの反応

- ◆ ワークシートに書く内容がはっきりするため、児童が積極的に書くことができた。

ちょっと一言

- ◆ ワークシートを工夫すると、活発な意見交換が期待できる。

道徳アンケートを活用した指導の工夫



- 学 年 第2学年
- 内容項目 4ー(1) 公德心, 規則の尊重
- 資料名 「オレンジ色のおいしい木のみ」(学研)

具体的な働きかけ

事前に道徳アンケートを実施し問題意識を高めておく。授業では、アンケートをもとに個人内めあてを設定したり、振り返るときに参考にさせたりする。



子どもの反応

問題を自分のこととして捉えやすくなり、振り返るときも自分の心をより深く見つめることができた。

ちょっと一言

毎時間アンケートを作成し実施するのは大変であるが、子どもたちが自己の生き方を見つめるのに有効であると考えます。

道徳的価値の理解を深める役割演技の在り方



- 学 年 第2学年
- 内容項目 1ー4 (正直・明朗)
- 資 料 名 「子だぬきポン」



【具体的な働きかけ】

- ・ 自作のDVDで資料を見せた。
- ・ 役割演技を取り入れて、なりきって意見を発表させた。

子どもの反応 (授業後の日記より)



今日、道徳で、子だぬきポンというお勉強をしました。ポンをいうたぬきが、次から次とうそをついていました。うそは、本当にだめなんだと思いました。これからは、気をつけようと思いました。



今日、道徳で子だぬきポンをしました。わたしは、子だぬきポンをしていないときは、「うそをついても気づかれないからいいや。」と思っていました。けれど子だぬきポンをお勉強した後、「気づかれなくても、もううそをつきたくない。」と思いました。

発達の段階に合わせた指導法の工夫（資料提示、役割演技を中心に）



資料を紙芝居形式で提示した。

低学年の発達の段階に合わせた指導のポイント

- 1 話の展開によりよく参加できるような資料提示の工夫。
- 2 主人公の心情や心情の変化を深く考えさせるための役割演技の設定。

- 第2学年
- 主題名「いのちのよろこび」
- 内容項目 3-(1)生命尊重
- 資料名「びよちゃんとひまわり」(学研)

(1) 資料提示のポイント

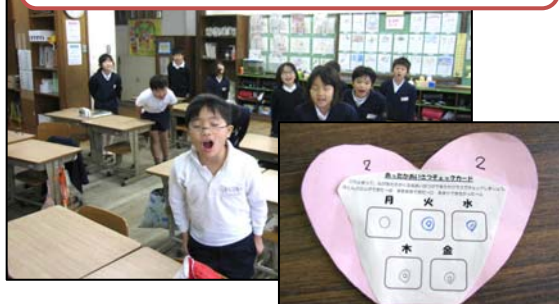
- 1 場面絵を紙芝居形式で提示。
- 2 登場人物の表情を伝えやすくするため、場面絵を加工する。
- 3 教師が情感を込めた読み方やめくり方で物語に引き込んだ。
- 4 副読本にない挿絵を作製し、場面の様子を視覚化した。

(2) 役割演技のポイント

- 1 演技者に面を被せることで、心情を具体的に想像させた。
- 2 フロアの児童にも発表させ、考えを共有させた。
- 3 演技させながら揺さぶりをかけ、即興的に発言させる。

日常生活と関連付けて道徳的価値のよさを理解する指導の工夫

友だちと実際にあいさつを交わしてみる。



あいさつ運動と関連づけて価値の生活化を図る。

- 第2学年
- 主題名「ここをつなぐありがとう」
- 内容項目 2-(1)礼儀
- 資料名「ぽっかぽか」(学研)

日常生活と関連づけるポイント

- 1 展開後半で、あいさつがよくできている様子を写真で紹介し、価値の理解を深める。
- 2 終末では、実際に友だちといろいろな挨拶を交わして挨拶の大切さや気持ちよさを感じ取らせる。
- 3 事後指導として気持ちのよい挨拶をした児童を称賛するなどして継続的な指導を行う。
- 4 あいさつ運動や月の歌（ありがとうのうた）と関連させて指導を行う。

道徳的価値のよさを理解できた子どもの記述

- 今の自分は、あいさつはできていると思います。もうちょっとよくしたいのは、相手の目を見て笑顔で元気よくしたいと思います。わたしは、勉強して、あいさつは大切だなと思いました。おばあちゃんのお母さんは、電信柱にもするぐらいあいさつは大切と言っていたそうです。
- わたしは、あいさつ、ごめんね、いいよと必ず言います。あいさつをすると、今日もがんばろうと思います。ごめんねと言うと、友だちとかともっとなかよしになります。いいよも同じです。わたしは、いい大人になりたいです。

吹き出しのワークシートや動作化を活用した指導の工夫



動作化によって子どもの考えを深める

道德的価値の自覚を深めた子どもの記述

- 約束や決まりを守って自分や人の気持ちを考えて行動したい。家でも学校でも楽しく気持ちよくすごせるようにしたい。
- 明日からくつやトイレのスリッパを並べてきれいな学校にしたい。みんなの気持ちも考えたい。

- 第2学年
- 主題名「みんながまもらないと」
- 内容項目 4-(1)公德心・規則の尊重
- 資料名「オレンジ色のおいしい木のみ」(学研)

- 1 黒板に鹿の住む丘を再現し、子どもを資料の世界に引き込む。
- 2 鹿のまーくんともこちゃんの考えや気持ちを役割演技を活用して具体的に出し合わせる。
- 3 役割演技をした後、登場人物の考えをワークシートに書かせることで子ども一人一人にじっくりと考えを深めさせる。
- 4 公共の場所での決まりを話し合わせることで、学習したことが身近な課題となるようにする。
- 5 学習をふり返りワークシートにかかせることで、今後の自分の生活に生かせるようにする。

小学校・低学年



自己を見つめ、自他とのかかわりを深める中で、道徳的実践力をはぐくむ道徳の時間の指導の在り方 — 表現活動の工夫（役割演技） —



- 学 年 第3学年
- 内容項目 1－（3）勇気
- 資料名 「あと、ひと言」

子どもの反応

- ◆ 役割演技をすることで場面に即して考えることができた。勇気に関する考えだけでなく「お母さんが心配する。」「怪我をすると迷惑がかかる。」などの考えが出た。

具体的な働きかけ

- ◆ 自分の考えを深めさせたり整理させたりするためにワークシートを活用し、自分の考えや思いを書かせた。そのうえで、友達の誘いを断った「ぼく」の気持ちに気付かせるために、役割演技を行った。役割演技の際は、子どもの表情にも注目させた。

ちょっと一言

- ◆ 価値に迫るために、事前に発問を十分に練ることが必要だと感じた。また、子どもの発言に対しての切り返しも大切だと思う。そのためには事前に子どもの反応を教師が十分想定する必要がある。

子どもの考えを引き出すワークシートの活用



子どもの反応

- ・ より深く資料について考えようとしていた。
- ・ あえて発問をワークシートに載せないことで、資料の世界に入り込み、発問を聞こうとする姿勢がみられた。
- ・ 繰り返し行う中で、自分の考えを自分の力で書けるようになった。

ちょっと一言

- ・ 他の先生方が実践されていることを、改めて意識して行ってみて、子どもたちの内面を知ることができたのでよかった。

- 学 年 第3学年
- 内容項目 思いやり・親切
- 資料名 新幹線で

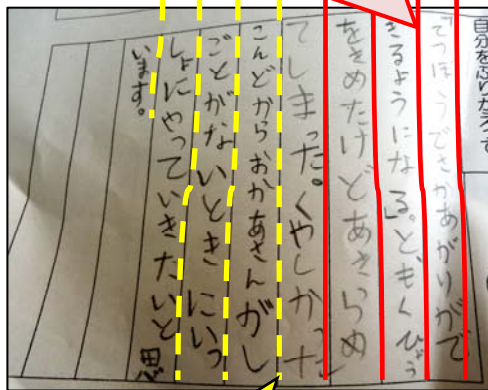
具体的な働きかけ

- ・ ワークシートに書かせているときに、机間指導をし、丸をつけて、子どもの考えに自信をもたせている。
- ・ より深く考えさせるために、「どうしてこのように考えたの。」というような、個別の発問をする。
- ・ 考えに自信をもたせるために、子どもたちの多様な考えを学級通信に載せている。
- ・ いつでも今までの内容を振り返ることができるように、ワークシート綴りを作成し、教室に置いている。

自分を見つめ直させる発問の工夫

- 学 年 第3学年
- 内容項目 勤勉、努力・忍耐
- 資料名 すりばち村のだんだん畑

振り返ったときの体験とその気持ち



自分を見つめ直したときの気持ち

子どもの反応

- 自分を振り返ることに抵抗なく、自分の体験やそのときの気持ちをすぐ書けるようになった。また、ことをしっかり書けるようになった道徳的实践力は発展途上であるが、「この前の道徳で学んだことだからさいごまでがんばろう。」という子が出てきた。

ちょっと一言

- 子ども自身が、自己を振り返り、そして、自己を見つめ直すことができる授業を展開できるように、児童の実態にあった発問を心がけていきたい。

具体的な働きかけ

- 導入で自分の体験とそのときの気持ちを振り返らせる発問をし、それをワークシートに書かせることで、学級全体でめあてを追求し、解決する雰囲気になった。
- 導入で子どもがワークシートに書いた気持ちのままにしないために、心がスッキリした文で終わらせることが大切であると考えた。そこで、教師が強制的な発問をするのではなく、「いい気持ちで終わりたいですね。」という、実践意欲をもたせる言葉をかけて、自分をみつめなおさせた。

実態に合う補助資料を取り入れた道徳の授業

第3・4学年（複式学級）／3年生5名（男子2名・女子3名）・4年生8名（男子4名・女子4名）計13名

- ・ 副読本の内容では、ピンとこない児童があり、身近な事例が必要である。
- ・ 副読本を事前に読むことが好きな児童が多く、すでに内容を熟知し感動が薄い場合があった。

（例）「努力の大切さ」

身近な事例：（昨年度の6年生・イチロー）



昨年度の5・6年生での25m完泳に向けての努力を写真と当時の日記から紹介。



（反応）あ！〇〇さんだ！
そう言えばお兄ちゃんが言っていた！
やっぱり5・6年生はすごいな！

今の自分達の努力
①朝のかけあし
②漢字テスト
③運動会の練習
④なわとび
⑤バレーなど

（反応）ほくも努力の天才になりたい！
イチローや5・6年生のように努力する人はかっこいいことが分かった。

そこで、児童の実態に応じて、副読本とは別に補助資料を提示し、児童の道徳的心情を高められるよう工夫した。児童は、副読本を読み、その後、心情を考えた後、補助資料から、感想を深めている。デジタルテレビを使用してオリジナル資料を作成するため、また、目新しい内容であるため、身近なことを題材にしているため、新鮮な気持ちで内容項目について考えられているようだ。



努力した結果、何かができるようになる人のことを天才というのなら、僕はそうだと思う。



思いやりの気もちをもとう



- 学年 第3学年
- 内容項目 2-(2) 思いやり・親切
- 活動のねらい

困っている友達の援助の仕方(スキル)を身に付け、他者に共感する気持ちをもつ。

子どもたちの反応

資料の中の場面で、自分だったらどう答えるかという、役割演技を行ったことで、どのように答えたらよいか一人ひとりに考えさせた。その後、道徳的实践力を高めるためのロールプレイを行った。子どもたちは、自然と自分の言葉を出すことができた。子どもたちの感想や日記からも、「楽しかった」「よくわかった」という言葉が出ていた。

書く活動の重視（書くことによって内言を明らかにし、発表へとつなげる活動の工夫）

学年：第3学年 内容項目：4-(4)愛校心 資料名：「なかよしポスト」

まずは、資料に出てくる主人公の価値について自分の考えを書いていく。

これが、発表への意欲付けへとつながる。



学年当初は、書く活動に抵抗があり、ほとんど書くことができなかった。

授業を重ねていく上で、書く量も増え自分の考えをしっかりと書けるようになった。

ワークシートに自分の考えを書くことによって、小グループによる発表も自信を持てるようになった。発言の少ない児童には有効である。

また、友達の発表を聞くことで、考えの類似点や相違点など意識しながら聞くことができるようになってきた。



使用している道徳ノート。授業を重ねることに、書く量も増えてきている。

授業後半の自己の生活を振り返る場面においても書く活動を重視する。

形式の同じワークシートを使うことで、児童の書くことへの抵抗は少なくなっている。

思いやりの心もち、よりよく生きようとする子どもの育成 ～自己の生き方を見つめる道徳授業をめざして～



- 学 年 第3学年
- 内容項目 2-(2) 思いやり・親切
- 資料名 「新幹線で」(学研教育みらい)

具体的な働きかけ

- ◆ 資料中と同じ状況を作り、即興的に行動したり発言したりする役割演技を取り入れることで自分の思いを語らせる。

子どもの反応

- ◆ 登場人物になりきって、気持ちを考えることができた。

ちょっと一言

- ◆ 演技をしている児童だけでなく、フロアにいる児童にも問いかけると広がりが出る。

小学校・
中学年

教室を飛び出して、大クスの下で道徳授業

日本一の大クスの下で生命の偉大さを感じる



- 第3学年
- 主題名「命のふしぎ」
- 内容項目 3-(3) 敬虔
- 資料名「自然のゆりかご」(学研)

なぜ大クスの下か？

敬虔は、素直に感動する気持ちや崇高なものに出会ったときの尊敬する気持ちを高めることが重要である。

↓そこで

樹齢1500年を超える蒲生の大クスを目の当たりにさせた。

↓すると

実物を通して、自然の偉大さ、素晴らしさを味わわせることができた。

教師の想定をこえる子どもの感動(ワークシートから)

- 倒れたエゾマツの上に子どもの木が生える。エゾマツの心は子どもにつながっていると思う。
- 木ってこんなに努力して大きくなろうとしているんだから採って遊んだりしない。
- 自然があるおかげで私たちも生きていける。私たちがいるおかげで自然も生きていける。そのつながりが私たちと自然をいっしょに生かしているのだと思う。

道徳的实践意欲を高める「ちょこっとスキル(道徳的行為)」

「こんにちは。」「ありがとう。」2語だけ
ど大きな1歩。



- 第3学年
- 主題名「私たちにできることは」
- 内容項目 2-(2)思いやり・親切
- 資料名「耳を聞いて出かけられますか」(学研)

スキルから実践意欲へ

本主題では、耳の不自由な方が社会生活の中でどのような困難を感じているかを相手の立場になって考えを深めることが重要である。

展開で高めた道徳的心情を実践意欲につなげるために、終末段階では簡単なスキル(具体的な道徳的行為)として手話を覚えて使わせた。

「ちょこっとスキル(道徳的行為)」導入のポイント

- 1 道徳の時間は体験活動の時間ではないので、意欲を高めるなど必要最低限のもののみ扱う。
- 2 展開において十分に道徳的価値観を広げ深めた上で、実践意欲を高める際に導入する。
- 3 導入例:「礼儀」あいさつが自分や相手の心を温かくしたり、心をつなげたりすることが分かりましたね。では、実際にどんな風にあいさつをしたら心がつながるだろうか。
→ちょこっとスキル

不屈の心(低学年)を活用して郷土を愛する心を育てる



焦点化した場面の子どもの思考を板書に構造化する

道徳的価値の自覚を深めた子どもの記述

- 私は蒲生の大クスを守りたいです。理由は、1500年前の人たちがずっと育ててきたから、昔の人たちの次は私たちだから守りたい。
- 蒲生の町で一番大切にしたいものは、太鼓踊りです。理由は今まで続いてきた伝統を守りたいし、来年は川東地区の太鼓踊りがなくなるかもしれないからです。

- 第3学年
- 主題名「ふるさとのために」
- 内容項目 4-(5)郷土愛
- 資料名「エラブリにかけろ」(不屈の心)

活用のポイント

- 1 教師が事前に資料分析を行い、人間的な心の迷いや弱さ・意義・心構えなど考えさせる場面を焦点化しておく。
- 2 事前に、苦しんでいるところ・すごいと思うところなどの視点を与えて読ませ感想をもたせる。
- 3 焦点化したい場面の提示絵を作成し、じっくり考えさせる。
- 4 勤勉・努力に流れないように「どうしてくじけず成し遂げられたのか?」と不屈の心の動機を明らかにしていく。
- 5 自分の町で大切に守りたいものについての実態を把握しておき、その思いを広げさせる。

体験活動と関連付けて道徳的価値の自覚を深める指導の工夫



ふろしきを使ってものを包んでみる。

- 第3学年
- 主題名「日本の文化やでんとうを知ろう」
- 内容項目 4-(6)愛国心
- 資料名「ふろしき」(学研)

ふろしき活用のポイント

- 1 展開前半で価値の自覚を深める際に活用する。
- 2 ふろしき：ビニル袋・紙袋にものを入れた場合、どう感じるか考える時間を設定しておき、そこでの気づきを本時に補充・深化・統合して考えを深める。
- 3 日本の文化の良さを感じ、大切にしたい気持ちを自覚させる。

道徳的価値の自覚を深めた子どもの記述

- ふろしきでつつむと、とても高級そうに感じました。
- ふろしきを使ってものを包んでみてとても大切なものを包んでいるように感じました。これからは、家でも大切なものを包んでみたいと思います。

道徳的価値観を広げ、深める話し合い活動の工夫



付箋紙を使って多様な考えにふれる。

- 第3学年
- 主題名「ほんとうの友だちなら」
- 内容項目 2-(3)友情・信頼・助け合い
- 資料名「絵葉書と切手」(学研)

付箋紙を使った意見交流

- 1 話し合う視点を理解する。
- 2 視点に沿って自分の考えを付箋に書く。
- 3 グループ内で一人ずつ自分の考えを発表し、台紙に貼る。
- 4 友達の考えを聞いて、疑問に思ったことや詳しく知りたいことについて質疑応答する。
- 5 全員が発表し終わったら、考えの似ているものや違うもので分類整理する。
- 6 分類整理されたグループ内の考えを基に、自分の考えを深める。
- 7 必要に応じて全体の場で発表し、全体での話し合いにつなげる。

話し合いへの介入のポイント

- 1 話し合う内容や視点を明確につかませる。
- 2 教師は出させたい考えを明確にもっておき、子どもから出ない場合は立場や観点を変えて考えを広げさせる。
- 3 書けない子どもは友達の考えを聞く中で、自分の考えをもてるようにする。

道徳性の育成を図るための学習指導の展開について

○ 学 年 第3・4学年複式学級

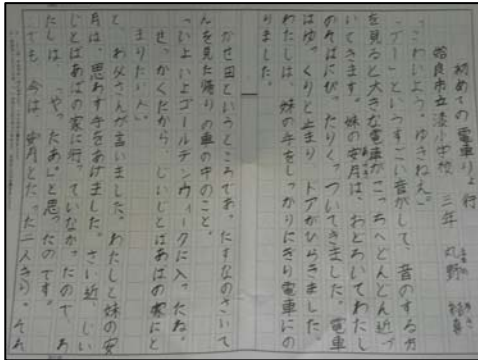
具体的な働きかけ

- ① 生活体験の中で感じた親切を言葉ではなく、実際に文章化することにより、人と人とのつながりの大切さについて深く考えさせることができた。
- ② いじめに関する映像の視聴を通して、普段気にも留めなかった言動が相手を傷つける場合があることを学ぶことができた。

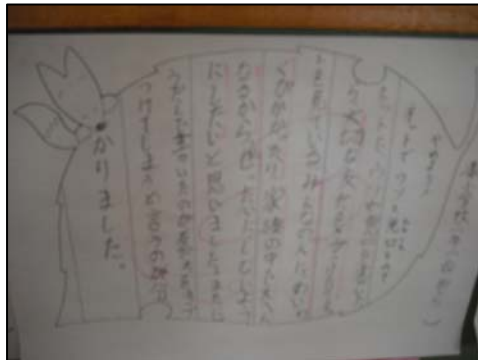
子どもの反応

文章化されたものを話し合わせることでよりクラスの輪がよくなってきた。

親切に関する作文



いじめに関する作文



小学校・中学年

実態調査を基にした資料の選定と事後指導の工夫

○ 学校行事との関連
「いじめを考える週間」
「校内人権週間」

内容項目2-(3)

道徳の時間

「友達にされたらういやなことが
てどんなことだろう？」



「お友達のいいところを見つけて
手紙を書こう。」



事前の実態調査（いじめについてのアンケート）を基に、事前に問題意識を高めておく。また実態に即した資料を選定。「わたしのいもうと」という絵本をICTを活用して提示し、主人公の心情に迫る工夫を試みた。

- 気がつかないうちに、だれかをいじめていることがあるかもしれない。
- いじめられたら、一生心にきずがのこると思う。
- 相手のことを考えてふわふわ言葉をたくさん使いたいと思う。

終末では「心のノート」を活用し、友達のよさを見つける活動を展開。事後指導としては、「ハッピーレターの継続的な取り組みとして行っている。

自己を見つめ、自他とのかかわりを深める中で、道徳的实践力をはぐくむ道徳の時間の指導の在り方 — 話し合いの工夫 —



- 学 年 第4学年
- 内容項目 3-（1）生命尊重
- 資 料 名 「お母さん、泣かないで」

子どもの反応

- ◆ 同じ考えをもっている友達とは「そうだよね。」とお互いに自信がもて、違う考えの友達とは「どうして?」「なるほど。」と聞き合う様子が見られ、考えを深めたり広げたりすることができた。また、交流した後は、子どもたちが自信をもって発表することができた。

具体的な働きかけ

- ◆ 中心場面では、自分の考えを広げさせるために、ペアやグループで考えを交流させ、互いの相違点や共通点など気付いたことをワークシートに書かせた。そうすることで、自分の考えにさらに自信をもたせたり、異なる考え方を認めたりできるようにした。

ちょっと一言

- ◆ 活発な話し合いをさせるために、意見を交流させる際に、他の考えを認め、できるだけ多くの友だちと交流するよう声かけをした。また、単なる発表し合うだけに終わらないように、日頃から相違点や共通点に目を向けさせ、それを発表できるようにしておくことが大切である。

小学校・
中学年

人に親切にするときは、どんな気持ちが必要なのだろう。



- 学 年 第4学年
- 内容項目 人の気持ちを考える
〔2-（2）思いやり・親切〕
- 資 料 名 「温かい言葉」

- 道徳の学習だけでなく、学級経営の1つとしてお互いの気持ちを考えて行動するということを話してきた。

子どもの感想から

- 相手が言っていることを理解しないと親切でないと思った。
- 言われたことに対してすぐ怒らないことも大切だと思った。

実践をして

- すぐカッとなる子がいたが、一呼吸置いて話をするようになった。
- 相手のことを考えて言葉かけをする子どもが増えた。

仲の良い友達といさかや仲直りをする話を通して、友達と励まし合い、友情を深めていこうとする心情を育てる。



○学 年 第4学年

○内容項目 2-(3)
友情・信頼・助け合い

○資 料 名 わたしとさおりちゃん

具体的な働きかけ

- 1 友達について振り返らせる。
- 2 資料を読んで心に残ったことを発表させる。
- 3 自分の気持ち一つで、友達を受け入れたりできなかったりすることを押さえる。
- 4 自分自身を振り返らせる。

ちょっと一言

- 挿絵を効果的に使いました。
- 普段何でも言える学級づくりを心がけています。

子どもの反応

- 自分の気持ちを優先してしまいがちだが、いつも支えてくれる友達の思いに目を向けることで、仲も深まっていくことを感じとっていた。

児童が自分の考えを自信をもって発表できるようにするための工夫



ワークシートがある方が、自分の考えをまとめて伝えやすいな。

【アンケートの実施】

授業で扱う価値について事前にアンケートを取り、児童が問題意識をもって授業に臨めるようにする。

何でも言い合えるのが本当の友達だ。

内容項目 2-(3)
友情・信頼、助け合い

資料名 オトちゃんルール

【ワークシートの活用】

児童が自分の考えを整理したり、じっくりと考えを深めたりできるようにワークシートを活用する。

内容項目 1-(1)
思慮、節度・節制、自立
資料名 マイダス王のなげき

ほかもそう思うよ。

【グループでの話し合い】

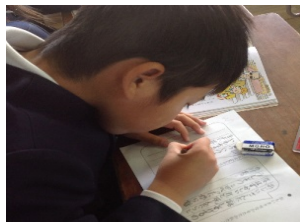


少人数で互いの考えを交流させる。共有できる価値の正当性について追求させながら、グループの考えをまとめさせ、全体に向けて発表させる。

内容項目 4-(5) 郷土愛 資料名 みんなの思いが伝わるといいな

自分の考えをなかなか発表できなかった子どもも、事前アンケートやワークシートを活用したり、グループでの話し合いに取り組んだりすることで、自信をもって発表できるようになってきた。

相手を思いやる心を育み、日常生活で生かすための工夫



子どもの反応

- ◆ じっくりとワークシートに書き込みをし、主人公の心の葛藤を考えていた。
- ◆ グループで自分たちの経験を話し合いながら
- ◆ 終末の振り返りでは、「思っているだけでは伝わらない、言葉や行動で伝えていきたい」という考えが書かれていた。

- 学 年 第4学年
- 内容項目 思いやり・親切
- 資 料 名 心の信号機

具体的な働きかけ

- ◆ 登場人物の心情の変化を視覚的にとらえることができるよう板書の工夫をした。
- ◆ ワークシートに書かせる時間を長く設定し、机間指導の中で個別に、「どうしてこう思うの?」と声かけを行い、道徳的価値を深められるようにした。
- ◆ 心のノートを活用し、これまでの自分の振り返りに取り組ませた。
- ◆ グループで交流させ、他者の考えを知ること、考えを広げたり深めたりできるようにした。
- ◆ 帰りの会などで、友達のよい行動を賞賛する場面を設けている。

小学校・中学年

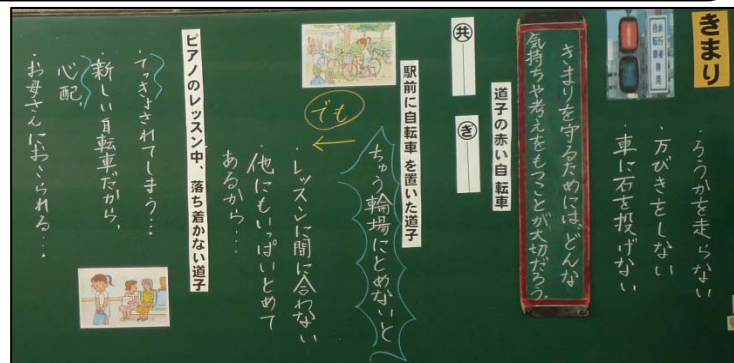
自らよく考え公共の場でのきまりを守ることの大切さを理解させ、自己中心的な行動をせず、周りのことまで考えていこうとする心情を育てる。

学 年 第4学年

内容項目 4-(1)

約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。

資料名 道子の赤い自転車



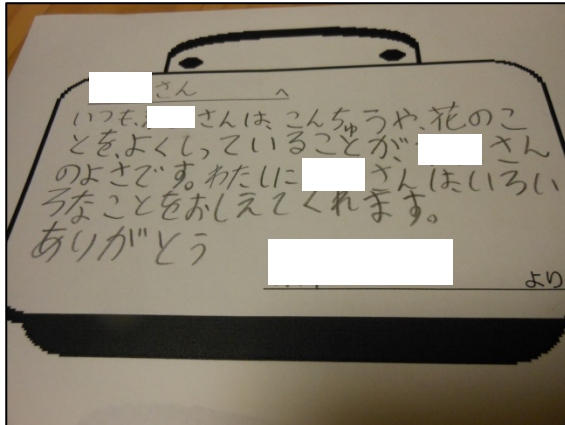
具体的な働きかけ

- 導入において、きまりとは何か、子どもたちの身近な信号機を例に挙げて考えさせた。
- 導入、終末の段階でアンケート結果をもとに自分たちの生活を振り返らせ、これからどういう行動をとればよいか考えさせるようにした。
- 机間指導で、自分の考えに自信をもたせるために丸や線をつけた。

今後の課題

授業の中で、きまりについて、対自、対他、対社の様々な面から考えさせたかったが、子どもたちからはほとんど対自の内容の考えが出てきた。これから授業の中で子どもたちの心を揺さぶる発問をさらに考えていきたい。また、普段の生活の中でも自分のことだけでなく、周りにも目を向けられるような声かけ・掲示物の作成などを行っていきたい。

友達のよさ、自分のよさを知ろう



- 学 年 第4学年
- 内容項目 友情・信頼、助け合い
- 資料名 「二十五人へのおくりもの」

具体的な働きかけ

- 本校の4年生にも転入生がきたが、どんな気持ちで受け入れたか、逆に転入生としての気持ちはどうだったかを尋ねた。
- カードを書かせ、自分のよさを知ってもらうことで友達との距離が縮まることを実感させる。

子どもの反応

- 「友達のよい所を見つけたい」、「みんなで仲良くしたい」という気持ちがたくさん挙がった。書かせたカードを渡すと、とても嬉しそうだった。

ちょっと一言

- 普段、友達の悪い所に目がいきがちな子どもたち。「よさ」を見つけることがよい関係を築けることを知り、互いのよさを見つけようとする姿勢が見えてきた。

思いやりの心を持ち、よりよく生きようとする子どもの育成 ～自己の生き方を見つめる道徳授業をめざして～



- 学 年 第4学年
- 内容項目 2-（2）思いやり・親切
- 資料名 「温かい言葉」（学研教育みらい）

具体的な働きかけ

- ◆ 役割演技をさせたあと、主人公の気持ちをワークシートに書かせ、それをもとに意見交流をさせる。

子どもの反応

- ◆ ワークシートに書くことで、自分の意見を発表しやすい。

ちょっと一言

- ◆ 交流の中で、出た意見をグルーピングすると、子どもたちだけでも価値に近づける。

「さぐる」段階での児童の多様な考えを引き出すための話し合い活動の在り方



- 学 年 第4学年
- 内容項目 指導内容2－(3)
友情・信頼、助け合い
- 資料名 わたしとさおりちゃん

具体的な働きかけ

- ◆ 全体での発表が苦手な子も発言しやすいように3人グループで話し合いをさせた。
- ◆ 教師自身が高校時代、実際に友達に励まされた時の手紙を読んだ。

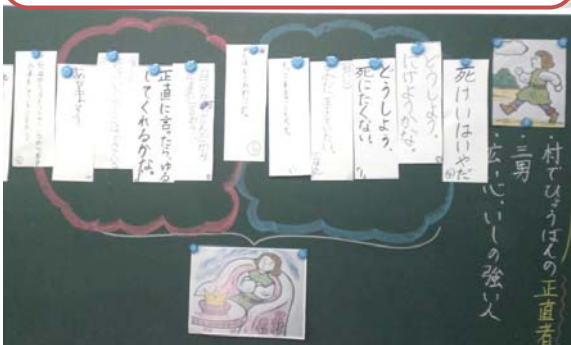
子どもたちの反応（授業後の感想より）

- 私もこの話と同じような事があったので『私』の気持ちがよく分かりました。自分がイライラしているからって人にそれをぶつけちゃいけないし、その人が悪い意味で言ったわけではないのも悪い風にとっちゃったりしてもどうかと思います。今日の授業で友達の大切さを知ることが出来て本当に良かったです。
- 今まで友達に助けられていることが多かったけど、これからは「わたしとさおりちゃん」のように友達と助け合ったり励まし合ったりしていきたいと思います。

小学校・
中学
年

道徳的価値を深める話し合いの工夫

短冊を黒板上に並べることで思考を整理する。



- 第4学年
- 主題名「せい実生きる」
- 内容項目 1-(4)反省、誠実・明朗
- 資料名「うそのつけないわか者」（学研）

短冊を使った話し合い活動

- 1 グループで話し合ったことの中から2つ取り上げて短冊に書く。
- 2 主人公の正直に言うか、逃げるか、の2つの心情を整理しながら、黒板上に貼り付ける。
- 3 どうしてそう思ったのか、全体で話し合うことにより、さらに考えを深めていく。

道徳的価値の自覚を深めた子どもの記述

- わたしは家族にうそをついたことがあります。スエンのようにちゃんと本当のことが言えるようになりたいです。そして、もしうそをついてしまったら、ちゃんと正直に言いたいです。
- ぼくはうそをついたことが何回もあるけれど、うそをついていいことが起こったことは、一度もありません。だから、スエンのように正直な人になって、逃げ出したくなくても、正直にそのことを話して、うそをつかないようにしたいです。

道徳的価値を深める話合いの工夫

短冊を黒板上に並び替えることで価値観を深める



- 第4学年
- 主題名「やりぬく心」
- 内容項目 1-(2)勤勉・努力、忍耐
- 資料名「中津野をうるおす用水路」(自作資料)

短冊を使った話合い

- 1 グループでの話合いの中からいくつか取り上げ短冊に書く。
- 2 人物の心情の動き(揺れ)のどの位置にあたるのか考えさせながら、黒板上に貼り付ける。
- 3 どうしてその場所に貼ったのか全体に問い直すことで、考えを深めていく。

道徳的価値の自覚を深めた子どもの記述

- 運動会前のリレーの練習では、いつも別のチームより何メートルも離されていたので朝練に取り組んだら、本番では1メートル差まで近づけた。目標に向かってがんばると結果が付いてくるんだ。
- わたしは今までつらさやめんどくささのためにあきらめてしまうことが多かった。わたしもゆきえさんのように努力することで、目標を達成できるようにがんばりたい。

小学校・中学年



タクトに込める情熱 ～下野竜也～



- 学 年 第5学年
○内容項目 『向上心、個性伸長』
○資 料 名 「タクトに込める情熱」
続 郷土の先人「不屈の心」
小学校上学年用

具体的な働きかけ

- 導入の場面では、指揮者の役割や下野さんについての興味を高めるために、オーケストラで指揮をする下野さんの動画を見せた。
展開の場面では、下野さんの指揮者の道を選ぶか、別の道を選ぶかを迷っている場面を中心場面として話し合わせた。迷いに共感させ、その迷いを乗り越えたときの心情を考えさせた場面でも、様々な考えを出し合っていた。
終末では、心のノートを活用し、「自分の夢」や「やってみたいこと」、「どんなことをがんばっていくか」を書かせ、子どもたちの意欲を高めることができた。

子どもの反応

- 学習発表会で合唱に取り組んだ後だったので、指揮者の役割について興味をもっていた。また、同じ鹿児島県出身であることや、世界的に活躍する人にも弱さや迷いがあったことを知り、自分の夢に向かって歩き出すきっかけになったのではないかなと思う。

ちょっと一言

- 「続 郷土の先人」は、郷土関連の素晴らしい資料で、道徳の時間はもちろんのこと、5年生国語の伝記の単元で、関連教材としても活用できます！ぜひ、御活用を！

学習発表会における一人ひとりの役割と責任の自覚

- 学年 第5・6学年 ○内容項目 4-（3）役割と責任の自覚 ○資料名 「森の絵」（学研）

具体的な働きかけ

- 資料「森の絵」を読んで、話し合いの中心を確認する。
・ えり子と文男が図工室にいる場面を中心に。
・ えり子が劇を成功させようという気持ちになった場面を中心に。
◎ クラスの一員として、劇を成功させたいと願うまでのえり子の気持ちの変化を話し合いの中心にすることをつかませる。
○ えり子が女王の役をゆすった後の気持ちについて話し合う。
・ やりたいけどめくみのほうがうまいので仕方ないと思っているから。
・ 譲りたくないけど、みんなもめくみがいいと思っているから。
◎ 自分よりもめくみのほうが適役であることがわかり、譲ることに納得した気持ちとやっぱり自分がやりたかったと納得できない気持ちの2つがあることをとらえさせる。

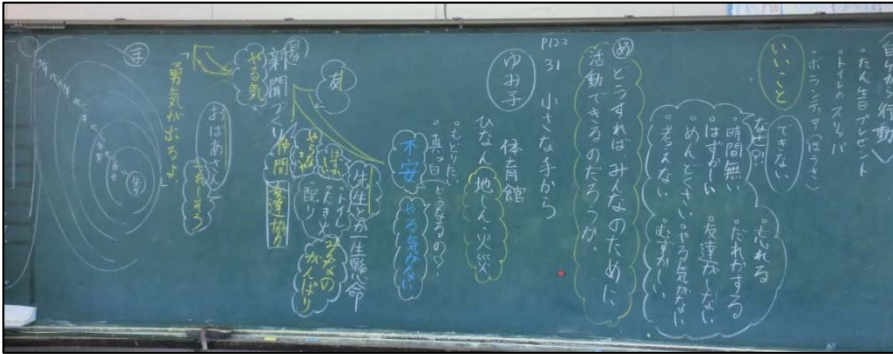


具体的な働きかけ

- ◆ 「誰かがしないといけない」という言葉で、わたしは学習発表会をがんばる自信がもてた。みんなで協力して、見ている人がいい気持ちになれるような学習発表会にしたい。
◆ 人任せにしないで、自分でできることは精一杯がんばる。 ◆ 自分は嫌でもだれかがやらないといけないし、みんなでやるのだから一生懸命やる。
◆ みんなで、思い出に残る最高の学習発表会にしたい。 ◆ みんなを驚かせたり、感動させたり、大笑いさせたりしたい。5年生と6年生の絆を見せつけたい。
◆ 自分の役割をあきらめず、責任をもって学習発表会に臨もうと思った。 ◆ 人に頼ってばかりいなくて、自分から積極的にやりたい。
◆ 主人公の絵里子みだいに、みんなで成功させる気持ちで学習発表会に臨みたい。みんなとアイデアを出し合って、楽しい学習発表会にしたい。
◆ このクラスならできる。ひとり一人がちゃんとしている学習発表会の練習にしたい。
◆ 成功させるために一生懸命し、どんな役でも精一杯する。そして、学習発表会を成功させたい。
◆ みんなやらなければ一生できない。自分のセリフをしっかり覚えて、恥ずかしがらずにできるようにしたい。できれば、周りのみんなのセリフも覚えて、困っていたら協力して、学習発表会を大成功させたい。
◆ 見る人を楽しませる。楽しませるためには、自分が役になりきって、ふざけずやりたい。ハプニングがあっても、そのまま気にせずやりきる自信をもちたい。
◆ どんなに小さい役でも大きな役でも責任をもって挑まないで学習発表会は成功しない。だから、恥ずかしくても責任をもって挑みたい。
◆ 自分の力を精一杯出して、みんなと一致団結して学習発表会に臨みたい。自分の役割に責任をもって、自分のセリフの時は、大きな声ではっきり言いたい。
◆ 自宅や昼休みなどを使って練習して、自信のある劇にしたい。観ている人が驚くような劇にしたい。



ボランティア活動への参加を促すための指導について



○ 学年 5年生

○ 内容項目
4-(4)
勤労, 社会奉仕, 公共心

○ 資料名
「小さい手から」



具体的な働きかけ

○ 「やった方がみんなのためになると分かっていたのにできなかった」時の気持ちと、資料の「みんなのために頑張った」時の気持ちとを比べ、進んでみんなのためにはそうしたらよいのかについて話し合わせた。

子どもの反応

○ 1人だとできないけれど、仲間と一緒に頑張れば活動できそうだと考えた。

ちょっと一言

○ 朝のボランティア活動を、みんなで頑張ろうという前向きな気持ちになった。

小学校・高学年

学校・家庭・地域が協働してつくる道徳の時間

主題名

命を守る

○ 学 年 第5学年
○ 内容項目 生命尊重
○ 資料名 「だくうでに力を」

つながるポイント

対話活動による意見交換



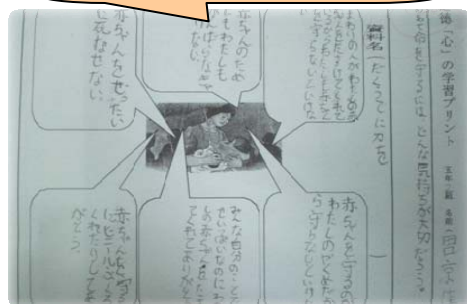
命を守るとはどういうことだろう。

- 重富地域から近くの鹿児島市奄美で起きた水害（8・6水害）の資料を通して、たった一つのかげがえのない命について考えを深めさせるようにしました。また、グループにおける対話活動：意見交換を通して、支え合いの中で生きる力が湧いてきたことに気付かせるようにしました。
- 終末に家族とのふれあいの写真や資料に登場されたお母さんご本人からのメッセージをスライドで見せて、大切に見守られ支えられて生きてきた自分を肯定的に自覚できるようにしました。

★きらきさん見つけた★

〈授業後の感想〉

- 命の大切さを改めて実感することができました。わたしも周りの人々に支えられて、生かされているんだなあと思いました。感謝したいです。
- ひとつの命を守るために多くの人の思いや頑張りがあったことが分かりました。わたしも命を大切にしなければいけないと思いました。そして、命を未来へつないでいきたいと思いました。



学校・家庭・地域が協働してつくる道徳の時間

主題名 自然を大切に

- 学 年 第5学年
- 内容項目 自然愛・環境保全
- 資料名 「美しい海岸を未来に残すために」
(自作資料 NPO 法人 くすの木自然館)

くすの木自然館の方の話をもとに



みんなの自然を守って未来に残したいです。

つながるポイント

- くすの木自然館の方に重富海岸の変容の話をしていただき、素晴らしい自然に囲まれて生活している自分たちが環境保全のためにできることはないかを考えさせるようにしました。
- 身近な重富海岸の話を取り上げることで、自分の生活と結びつけて考えることができるようにしました。
- 教室にミニ重富海岸を作り、ゴミを拾いながら発表させることで考えを深め、広げられるようにしました。

★きらきらさん見つけた★

〈授業後の感想〉

- わたしたちのきれいな重富海岸を未来の子どもたちに残していきたいなあと思いました。そのために、ゴミを捨てる人ではなく、ゴミを拾う人でありたいなあと思いました。
- 美しい自然や生き物に感謝できる人でありたいです。

小学校・高学年

学校・家庭・地域が協働してつくる道徳の時間

主題名 社会のためにできること

- 学 年 第5学年
- 内容項目 勤労、社会奉仕、公共心
- 資料名 「小さな手から」

つながるポイント



みんなの役に立ちたい。



保護者の話を聞いて

★きらきらさん見つけた★

〈授業後の感想〉

- 自分ができていることを考えて行動すると、みんなも自分も笑顔になれるんだなあ。わたしもみんなの役に立つことを何かしたいなあと思いました。
- 保護者の方の話の中で「勇気をもって、自分にできることにチャレンジしてください。」という言葉が心に残りました。自分から進んで、みんなのために何かしたいなあと思いました。

思いやりの心もち、よりよく生きようとする子どもの育成 ～自己の生き方を見つめる道徳授業をめざして～



- 学 年 第5学年
- 内容項目 4ー(4) 勤労、社会奉仕、公共心
- 資料名 「黄金色の稲穂」(自作教材)

具体的な働きかけ

- ◆ マグネットシートを活用した対話活動を取り入れ、実践を支える見方等を十分に深めたり広げたりできるようにする。

子どもの反応

- ◆ 自分が考えた理由をはっきりさせ、考えを絞ることで、対話活動がしやすくなった。

ちょっと一言

- ◆ マグネットシートに書くのは、短い言葉で。考えた理由等は伝え合おうと対話ができる。

小学校・高学年

道徳的心情を高めるための授業の在り方について



- 学 年 複式第5・6学年
- 内容項目 明朗・誠実
- 資料名 「のりづけされた詩」

具体的な働きかけ

- 心情図
心の葛藤を視覚的に捉えることができ心の声をたくさん聞くことができた。
- 心情てんびん
揺れ動く気持ちを天秤を使って板書した。
- 動作化

子どもの反応

(子どもの発表から)

うそやごまかしをすると、バレてもいないのに心の中がモヤモヤしてしまう。先生に相談して心をスッキリさせたい。

ちょっと一言

- ◆ 今後、子どもたち同士で意見を交換し合う対話活動を取り入れた授業にも取り組んでいきたい。

体験活動と関連付けて道徳的価値の自覚を深める指導の工夫

児童作文を拡大コピーして黒板に提示

ぼくは、二日前、キャンプ場にいきました。久しぶりに家に帰ると、何も変わっていませんでした。でも、何だか楽しい気持ちになりました。そして今、ゆっくり家で過ごしています。平ほんな毎日が、すごくうれしい毎日になっています。

テレビがあったり、お風呂があったり、でも一番ぼくがうれしいのは、家族が目の前にいるということです。家にいるということは、家族がいつでもわかってくれるということです。ぼくはあらためて家族の大切さがありがたさが分かりました。せんたく物がほしてあるベランダ、まわりに見えるしんせきや友だちの家、二日前までは何とも思っていなかった景色が、とっても新しな感じがします。またこれからこの家で、育ち続けていきます。

宿泊学習から帰って
五の二

- 第5学年
- 主題名「大切な家族」
- 内容項目 4-(5) 家族愛
- 資料名「宿泊学習から帰って」(児童作文)

児童作文活用のポイント

- 1 展開後半で価値の自覚を深める際に活用する。
- 2 宿泊学習の中で、家族のことについて考える時間を設定しておき、そこでの気づきを本時に補充・深化・統合して考えを深める。
- 3 身近な友達の考えに自我関与させ、自分の中にある家族を大切にしたい気持ちを自覚させる。

道徳的価値の自覚を深めた子どもの記述

- Kさんの家とわたしの家はちがうけど、わたしもKさんと同じ気持ちで家族の大切さが分かりました。
- わたしもKさんと同じように家族のありがたさと大切さが分かりました。平ほんな毎日だけど、家族がいるから楽しい。これからも家族を大切にしていきたいです。

小学校・高学年

資料と生活を結びつけるためのワークシートの活用について

- 学 年 第5・6学年複式学級

具体的な働きかけ

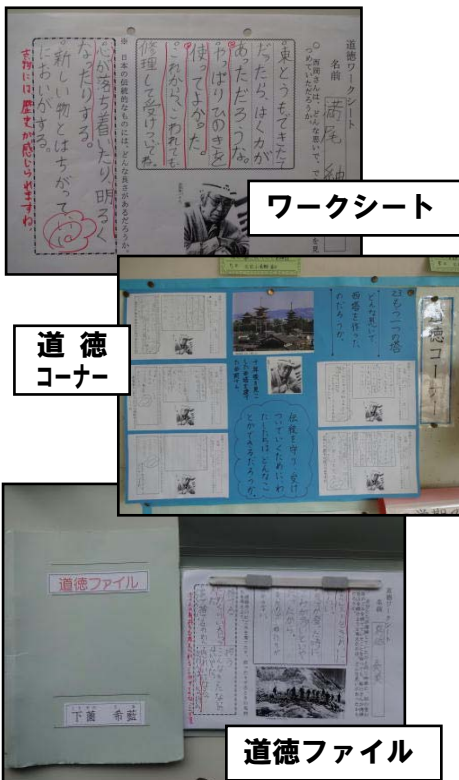
- ① ねらいとする価値について、じっくり考える時間を設定したいので、各時間、ワークシートを準備した。さらに、書くことを通して価値の大切さに気づかせ、自分の考えをまとめさせたかったので、書く作業にじっくり時間をかけた。
- ② 子ども同士がお互いの考えを共有できるように「道徳コーナー」に掲示した。
- ③ ワークシートは、年間を通してファイルに綴じ、変容を見るようにした。

子どもの反応

書くことに抵抗がなくなり、自分の考えを進んでまとめるようになった。また、お互いのワークシートを読む機会が増えた。

ちょっと一言

毎時間大変だったが、ワークシートを作成する中で、価値を明確にできた。



一人一人の考えを共有できるように構造化された板書の工夫



○学 年 複式第5・6学年
○内容項目 2-（3）
信頼友情、男女の協力
○資 料 「言葉のおくりもの」

具体的な働きかけ

- 1 導入では、友達の良さを十分に話し合わせ、板書した。
- 2 構造化された板書を意識し、子どもたちの発表から、時間の流れによって場面を整理した。また、3人の登場人物の相関関係を中心に板書した。
- 3 友達を思う気持ちを話し合う展開の場面では、それぞれの考えをホワイトボードに記入させて提示した。

意識を高めるために

子どもたちが自分の考えをまとめたワークシートは、挿絵とともに掲示している。

子どもの反応

ホワイトボードには、素直な気持ちをそれぞれの言葉で記入していた。また、ホワイトボードに書かれた友達の考えに触れることで、自分の考えを深めることができた。さらに、終末で自分の考えをまとめるときに、発表にはなかった考えを付け加えて書いていた。

小学校・高学年

ボランティア活動を充実させるために

○ 学年 第6学年 ○ 内容項目 愛校心
○ 資料名 きえた紙くす

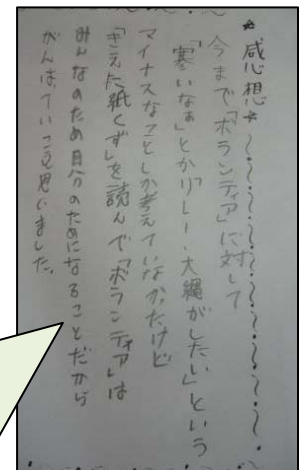
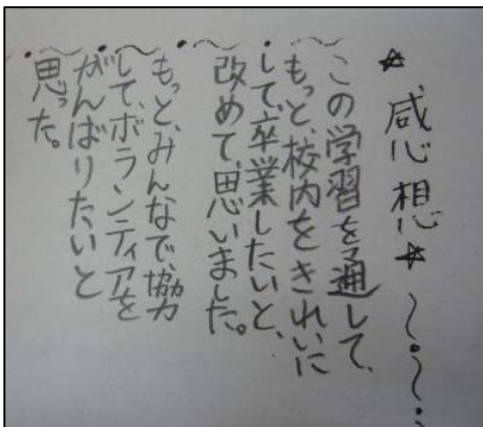
子どもの実態

- 4月から、最高学年として週2日ボランティア活動を行っている。最初は、6年生になった喜びの気持ちと、学校・みんなのために頑張ろうという気持ちで一生懸命取り組んでいたが、月日がたつにつれて、子どもたちの意欲が低くなってきたため、実践を行った。



子どもたちの反応

今まで確かにボランティア活動に対してめんどくさいと思っていたという事実を認め、これからは卒業まで学校のため・みんなのためにボランティア活動を頑張ろうという気持ちで取り組むようになってきた。



助け合って

○学 年 第6学年
○内容項目 勤労、社会奉仕、公共心
○資料名 「よみがえれ日本海」



【始業前のボランティア活動】

◆道徳的価値の自覚化

子どもたちは、日頃からボランティア活動に取り組んでいるが、能動的というよりも受動的に取り組んでいる子どもが多い。そこで、日本海重油タンカー転覆事故の際の、ボランティア活動の資料を取り上げ、価値の自覚化を図った。説話では、「気づき、考え、実行する」という青少年赤十字の理念にふれ、考えを深めさせることができた。



【街頭募金活動】

◆自己の生き方についての考えを深める活動

子どもたちは日頃から始業前に落ち葉拾いや玄関掃除のボランティア活動に取り組んでいたが、「遊びたいから」「寒いから」という心の弱さが勝り、進んで取り組む子どもは少なかった。しかし、授業の翌日からは、ボランティア活動に自ら取り組む子どもが増えた。

また、赤い羽根共同募金の学校募金ならびに街頭募金に取り組んだ。街頭募金は、希望者を募っての実施であったが、多くの子どもが自ら参加した。募金活動後、次のような感想もあり、道徳的实践力が高まった。

子どもの感想

「最初は恥ずかしかったけど、みんなが協力してくれてうれしかったです。これからもボランティア活動に取り組んでいきたいです。」

小学校・高学年

いじめ問題を考える

◆ 学 年
第6学年

◆ 内容項目
友情・信頼、助け合い

◆ 資料名
いじめられて

◆ 今後の課題
道徳の時間だけでは、心情を深めることができなかったため、グループエンカウンターの手法を用いて、同じ言葉であっても人によって感じ方が異なることを実感させていきたい。



思いやりの心もち、よりよく生きようとする子どもの育成 ～自己の生き方を見つめる道徳授業をめざして～



- 学 年 第6学年
- 内容項目 2-(4) 寛容・謙虚
- 資料名 「お別れ会」(学研教育みらい)

具体的な働きかけ

- ◆ 主人公の気持ちを考えた後、ボードに記入させ、ディスカッション形式でお互いの考えを交流する。

子どもの反応

- ◆ それぞれの意見を知ることができ、考えつかなかった考えにも出会うことができる。

ちょっと一言

- ◆ 交流に教師も加わり、子どもたちの考えに共感、発問、方向付けをすることで、子どもたちの考えも整理される。

小学校・高学年

児童が自分の気持ちを表現しやすくするための補助資料の活用について

- 学 年 第6学年
- 内容項目 家族愛
- 資料名 はじめてのアンカー

事前指導

児童が家族にしてもらってうれしかったことを話し合う。保護者には、子どもに向けての手紙を依頼しておく。

子どもの反応

始めは単語や短い文で気持ちを表していたが、親からの手紙を読んだ後に感謝の手紙を書いたため今の気持ちを素直に書くことができていた。また、その手紙を親子一緒に読む姿も見られた。

事後指導

週報を利用して勤労感謝の日に親への感謝の気持ちを態度で表すように実践化に取り組めるよう保護者の協力を求めた。

保護者からも自分なりの考えをしっかりと発表する姿をみることができよかったという声をいただいた。



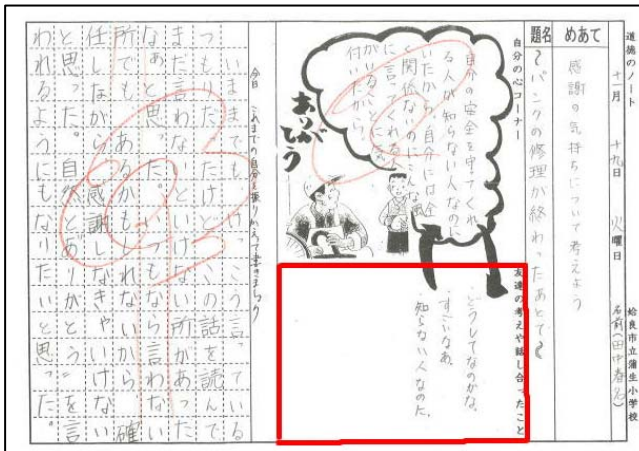
勤労感謝の日

土曜日は、勤労感謝の日です。日頃の労働に対して感謝をする日。6年生は、掃除・洗濯・食事づくり・裁縫等家庭科の学習の中で学んできました。

土曜日は、家事を子どもたちに任せ、学習したことを生活の中に生かす機会にされてみてはどうでしょうか。

道徳的価値の自覚を深めるワークシート・話し合いの工夫

話し合いの中でのキーワードを記入する欄の導入



- 第6学年
- 主題名「感謝の気持ち」
- 内容項目 2-(5)尊敬・感謝
- 資料名「パンク修理が終わった後で」(学研)

ワークシート・話し合いの工夫

- 1 ワークシートを基にペアで話し合い、簡単にワークシートに書く。
- 2 ただ話し合うのではなく、支えている立場の人と、支えられている立場の人の視点で話し合いを行わせる。
- 3 話し合いに集中させるために、友達と手をつながせた。

道徳的価値の自覚を深めた子どもの記述

- いつも感謝していると思っていたが、いろいろな場面でまだまだあるかもしれないと思った。
- 日頃からありがとうという気持ちをもつことがとても大切だと気付いた。
- 自然とありがとうを言われるようになっていきたいと思った。

小学校・高学年

道徳的価値の自覚を深める話し合い活動の工夫

思考が視覚化できる小黒板(ホワイトボード)を活用。



- 第6学年
- 主題名「わたしができること」
- 内容項目 4-(4)勤労、社会奉仕、公共心
- 資料名「よみがえれ日本海」(学研)

小黒板を使った話し合い

- 1 ワークシートを基にグループで話し合い、キーワードにして書く。その際、考えを否定されることがないように留意する。
- 2 全体での話し合いの中で疑問点や詳しく知りたい点について質問し合い、自分の道徳的価値を深めたり再構成したりする。

道徳的価値の自覚を深めた子どもの記述

- 身の回りで起きたことは他人のことと思わず、自分のこととして考え、その人や周りの人のためにがんばりたい。行動することが大切だ。
- 自分から進んで、誰かのために何かをしようと思った。朝のボランティアへの気持ちが高まった。
- 一人ではできないことでも、いくつかの強い思いが合わされば不可能はない。

自分の体験を振り返り、郷土の伝統文化の良さや、大切さについて理解するとともに、地域社会の一員として郷土の発展に寄与していこうとする。



- 学 年 第2学年
- 内容項目 郷土愛
4-(8)「郷土を愛する心」
- 資 料 名 「田植え踊り」

具体的な働きかけ

- 1 郷土芸能に取り組む主人公の気持ちに共感する。
- 2 伝統を伝えようとする人々の気持ちを考える
- 3 伝統を受け継ぐことの大切さを考える
- 4 地域を愛し、伝統を受け継ぐために、自分に出来ることを考える。

子どもの反応

- 主人公は、誇りを持って受け継いだ。
- おじいさんはうれしかったに違いない。
- 自分も地域行事に参加してみたい等

備 考

- アンケート結果のグラフ
- 太鼓踊りの映像
- 範読CD
- 地域行事の写真 等

人の生き様に触れることで、自分自身のよさに気づくとともに、それを伸ばし、充実した生き方を追求しようとする態度を養う。



- 学 年 第1学年
- 内容項目 1-(5)
向上心・個性の伸長
・充実した生き方
- 資料名 笑顔の贈り物

生徒の反応

- ◇ 視聴覚機器を使い、坂本 九さんの生き様・価値観を、見て感じ取り、聴き浸ることでより深い価値追求ができていた。
- ◇ 坂本 九さん本人が書いた幼少期の詩を導入と終末に用いたことで、一貫された母への強い思いを読み取ることができた。

具体的な働きかけ

最初に、坂本 九さんが幼少期に書いた詩を見せた。母親への強い思いが書かれたもので、併せて辛い幼少期も読み取らせた。誰が書いたものかは、伏せ、テレビ映像でヒントを与えながら、誰が書いたものかを当てさせた。

大スター坂本 九さんの生い立ちをクイズ型式で追いながらその足跡をたどり、人の「生きる価値」について、読みを深めさせた。

生徒の価値観を揺さぶり深め内面化を図る手立ての工夫



- 1 学 年 第1学年
- 2 内容項目 4ー(1)
- 3 資 料 名 オーストリアのマス川
- 4 本時のめあて

きまりって何のためにあるのだろう。

5 生徒の感想より

- 私は今まできまりを破っていたことがあると思う。迷うこともたくさんあったと思う。でも、今日

改めて、しっかり考えたら、普通に考えてきまりだから守らなければいけないと思った。これからも迷うことがあるかもしれないけど、しっかり守りたい。

- やっぱりこういうことがあると悪い方が勝ったり、良い方が勝ったりしていた。きまりを守るということは簡単そうでとても難しいものだ改めてわかった。これから、きまりを完全に守ることはできないかもしれないけれど、していいこととだめなことを見極めていきたい。

実生活との結びつきを考えた道徳の授業



始良市立帖佐中学校《道徳の授業》

- 道徳の授業において読み物資料等を活用し、必要な道徳的価値について考えさせ、道徳的心情を育むことは大切なことである。また一方で、実生活に直接結びつくような題材を用い、生徒自身で考えとともにグループで話し合い、考えを広げることは実生活におけるより良い実践につながるばかりではなく、他者理解・自己理解につながる学習となる。

写真は2年の道徳の授業において、「計画性のある生活」を主題に、自作資料「僕のこんな毎日」で授業している様子である。生徒たちは、自分が資料の主人公であったら、部活動と勉強の両立にどう取り組むのかグループで考え、まとめたものを黒板に掲示し発表し合った。

【生徒の授業の感想】

- ◆ 今後はわがままばかり言うのではなく、自分でできることは自分でやりたいです。(抜粋)
- ◆ 自分の夢に向かって努力できるように少しずつ変わっていきたいです。(抜粋)

毎日、生徒全員が笑顔で過ごせる学級に



新聞の投書
を提示し、
生徒の思考
を揺さぶる。

新聞記事
を参考にし
ながら自分
の考えを発
表する。



○ 子どもの反応（生徒の感想より）

「カメラ設置は良い方法でない。別の方法もあったはず。」「いじめをなくすための最終手段。いじられた生徒の生命にかかわると思う。」「いじめがない今こそ、学級の仲間一人一人を大切にしていきたい。」

- 学年・主題 第2学年 よりよい学校生活を求めて
- 資料名 新聞記事の活用

○ 具体的な働きかけ

- ① いじめをなくすために教室にカメラを設置した教師の行為について考えさせる。
- ② 投書欄「若い目」に寄せられた、教師の行為に対する多様な意見を読み、考えを深める。
- ③ 自分たちの学校生活に置き換え、自分たちがしなければならないことについて、まとめさせる。

○ ちょっと一言

- ・ 本時の価値の追求の柱は「生命尊重」。
- ・ 話し合いは「何が見えてくるか」という見通しを持ち「自覚化・意欲化にどうつなげるか」という視点で授業設計を行う。

生徒に「親の子どもへの思い」を理解させるために



おなか
中の赤ちゃん
のエコー
写真を活用

生徒全員
が親からの
手紙を読む



○ 子どもの反応（生徒の感想より）

「いつも文句ばかり言ってるけど、親からの手紙で、本当に自分のことを思ってくれていることがよくわかった。」

- 学年・主題 第2学年 生命の尊さ
- 資料名 あなたに

○ 具体的な働きかけ

- ① 資料を読み、「赤ちゃんが生まれてくるまでのこと」「赤ちゃんが生まれてきたときのこと」について親の気持ちを考えさせる。
- ② 「赤ちゃんを見ていると『自分の命が未来に向かってずっと続いていく感じがする』ということについて考えさせる。
- ③ 親からの手紙を読み、自分が生を受け、今生きていることについて考えさせる。

○ ちょっと一言

「親から手紙」については、生徒の家庭状況をよく確認して実施すること。

固定観念・偏見・差別を見抜ける力をつけ、それらをなくす考え方を身に付ける。



- 学 年：第2学年
- 内容項目：4－（3）正義を重んじ、
だれに対しても公平・公正にし、
差別や偏見のない社会に努める。
- 資 料 名：偏見と差別を見抜こう

具体的な働きかけ

シナリオを読んで、感じたことをだし、理由を考えた。問題点と改善策を話し合った。

子どもたちの反応～感想から～

- 決めつけるのはよくない。
- まわりに流されない。同調だけじゃなく、自分の考えを言う。
- 自分の思い込みで自分を苦しめることになると思う。

子どもたちは、自分たちの中にある決めつけに気づくことができていた。友達への見方もふり返る機会となった。

生徒の価値観を揺さぶり深め内面化を図る手立ての工夫



- 1 学 年 第2学年
- 2 内容項目 4－（3）
- 3 主 題 名 「時の響きて」
～ハンセン病問題を知る～
- 4 資 料 名
「伝えよう！過去を 今を これからを」
(ハンセン病問題教育課程研究委員会編)
- 5 本時のめあて

ハンセン病問題（らい予防法）の犠牲になった人々への気持ちに寄り添ってみよう。

6 生徒の感想より

- 私たちには分からない想像を絶する体験なんだろうなと思いました。せつかくできた赤ちゃんを強制堕胎させられるのはあんまりだと思いました。絶対あってはならないことです。昔は間違ったハンセン病の情報のせいで多くの人がひどい差別にあったことも学ぶことができたので良かったです。理解を深めていきたいです。そのためにもこれからも学んでいきたいです。
- ハンセン病になった方の親族の生活などを、もっと詳しく知りたいと思いました。
- 不当な法律で家族と引き裂かれ、子どもを殺された衝撃はすごかったと思う。それでも生きている人たちは強いと思った。ハンセン病に対する当時の認識と家族の暮らしをもっと知りたいと思った。

自然を愛護し、美しいものに感動する心を持ち、人間の力を越えたものに対する畏怖の念を深める。



- 学 年 第3学年
- 内容項目 畏怖の念
3-(2)「自然への畏怖」
- 資 料 名 「樹齢七千年の杉」

具体的な働きかけ

- 1 縄文杉に感動した作者の気持ちに共感する。
- 2 屋久島に対する感動の理由を考える。
- 3 屋久島の抱える問題点を探る。
- 4 身の回りにある自然を大切にする為に、自分に出来ることを考える。

子どもの反応

- 人間の存在を遙かに超えた自然は凄い。
- 屋久島は自然の宝庫だ。
- 人間も自然の中で生かされている。等

備 考

- 縄文杉の胴回りのロープ
- 屋久島の映像
- 範読DVD
- 屋久島在住の方からの手紙

多様な価値観に気づく



- 学 年 第3学年
- 内容項目 2-(5)
- 資料名 ちがいのちがい

具体的な働きかけ

生徒と保護者を合わせてグループに分け、様々な「ちがい」の書かれたカードを「あってもいいちがい」「あってはいけないちがい」に話し合いながら分けていく活動を行った。その後、グループごとに発表して同じ学級の中でも価値観に違いがあることを確認した。

実践での反応

- 生徒からは「差別だからよくない」といった意見が出ていた。また、保護者に一緒にグループに入ってもらふことによって、大人と子どもの価値観の違いにもふれることができた。

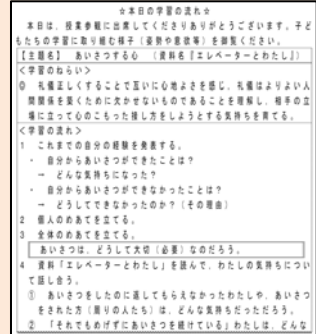
P T A活動を生かした家庭との連携 I

取組	9月の授業参観日に全学級で道德の時間の授業を公開する。
ねらい	保護者に対する道德教育への理解をより深めてもらうために実施する。



具体的な連携内容

- 1 授業公開では、4月のP T Aで設定した道德教育に関する年間目標と関連する内容項目で実践する。
- 2 各学年の道德部を中心に、保護者に配布する学習の流れシート（右記）を事前に各学級（学年）で作成し、活用する。



実践を通しての成果・課題【成果○ 課題△】

- 道德の時間の中で、子どもの様子や考え方を知ってもらえる良い機会となった。
- △ 終末段階等で、保護者が授業に参加できる手だて（手紙や話等）を講じる。
- △ 子どもの考えや思いへの理解をより深めてもらうために、事前のアンケートをいっしょに考えてもらったり、見届けをしてもらったりする。

P T A活動を生かした家庭との連携 II

取組	9月の授業参観後に、道德の時間及び学級・学年で設定した道德教育に関する年間目標・努力点についての話し合いをする。
ねらい	学校と家庭との連携を深め、相互の共通理解・共通実践を通じた道德教育の充実を図るために行う。



具体的な連携内容

- 1 4月の学級・学年P T Aの前に、道德教育に関する年間目標について、道德教育全体計画の学年重点目標及び実態を基に各学年で設定する。
- 2 4月の学級P T Aの中で、担任から年間目標とその設定の意図を説明した後、保護者とともに努力点（具体策）を設定する。
- 3 9月の学級P T Aで、4月に設定した努力点（具体策）の取組状況や子どもたちの変容及び道德の時間の授業の様子等について話し合う。

実践を通しての成果・課題【成果○ 課題△】

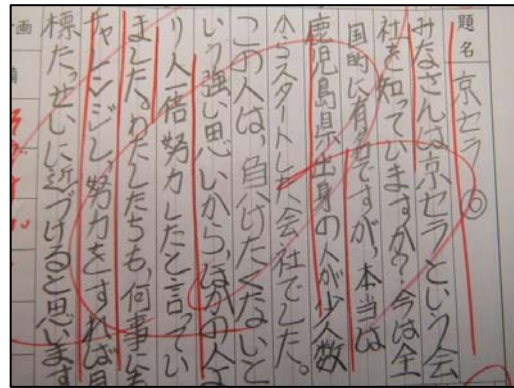
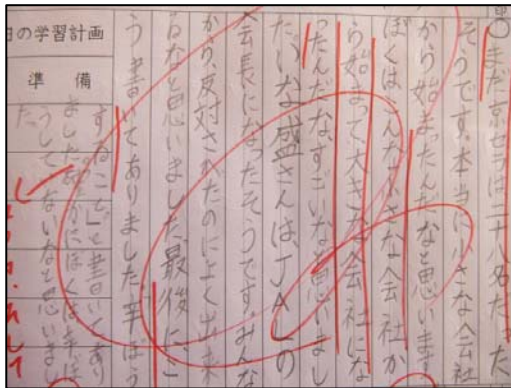
- 学校でも家庭でも、目標や具体策を意識した取組の姿が見られるようになってきた。
- △ 相互に情報発信・受信が行えるように、家庭での様子を用紙に書いてもらい、道德コーナー等を設けて掲示することでより連携を図ることができる。

日常生活の中での道徳教育の実践

- 学年 第5学年
- 資料名 続郷土の先人 不屈の心

普段の生活の中での実践

4月の学級スタート時から、なりたい自分を見つめる時間の確保に努めてきた。また、設営なども工夫し、自分の夢や想いを伝えたり表現したりする機会を道徳の時間以外でも充実させる工夫を行ってきた。



子どもの反応

- 道徳の時間以外でも自分たちの夢や目標について話す雰囲気が出てきた。更に鹿児島県出身の人について知ることによって憧れや、これからの自分と対峙させる姿も見られるようになった。

国語科における、互いを認め・受け入れ合う活動の工夫

- 学年 第2学年
- 内容項目 2-(3) 友情・信頼、助け合い
- 資料名 国語「友だちのこと、知りたいな」

具体的な働きかけ

- 友だちのことを取材し、他者紹介の作文を書くことにより、今まで知らなかった友だちの得意なことやがんばっていることが分かり、今まで以上に、互いを認め合い協力していこうとする意欲の向上を図った。

指導を行って

- 授業を行った日の帰りの会では、「いいこと発表」がいつもより多かった。今後も全教育活動における道徳教育という視点を意識して指導していきたい。また、子どもたち一人一人にスポットライトを当てる活動を意図して設け、学級の中での子どもたちの居場所を作っていきたい。

子どもの反応

- 作文の最後に今後その友だちとどう関わっていきたいかを書くことにより、今後の活動の意欲につながった。自分のことを紹介される子どもは、照れくさそうであったが、笑顔で聞いていた。後日日記に、「ほめてもらってうれしかった。」という内容が多かった。



校区公民館主催行事「永原ふるさと学寮」での体験を通した心の育成

1 写真で見る活動の様子

【自炊の様子】



【JA女性部による
郷土料理教室】



2 対象学年 第5・6学年全員（平成25年度参加児童13名）

- 3 目標
- ① 参加児童が、校区公民館で寝食を共にしながら生活することで協調性や忍耐力、感謝する心を培う。
 - ② 活動の見守りやもらい湯など、地域の方々にお世話になるなど地域の方々と交流することで、感謝する心や郷土を愛する心を養う。
 - ③ テレビやゲーム機などから離れて生活することで、友だちと語らい静かに自分を見つめることができる。
 - ④ 家族から離れて生活することで改めて家族の大切さに気付くことができる。

4 子どもの反応（感想文から）

- 自炊生活を体験したことで、改めて母の大変さが分かった。
- 困ったことがあっても友だちが声をかけてくれて嬉しかった。
- 家で勉強するよりも、早く済ませることができた。
- 夜寝るときに、友だちと普段よりたくさん話すことができた。
- 地域のもらい湯の方々親切にいただき、体も心も温かくなった。
- 来年は6年生になるので、自分たちが5年生をリードして、楽しく学寮を過ごしたい。

読書大好き！学校大好き！ 読書集会での取組



- 学 年 全学年
- 内容項目 愛校心
- 活動のねらい

他学年の児童に親しみ、楽しい学校生活を送ろうとする心情を育てる。

子どもたちの反応

お互い知らなかった異学年の児童どうしが、一冊の本を通して笑顔になり、上手に読み聞かせができる、静かに聞くことができるなどお互いのよさに気付くことができた。

また、児童から「自分より小さい学年の子に読んであげたい。」「お兄ちゃん、お姉ちゃんに読んでもらいたい。」「自分にもできる。」といった感想が多くあり、これからの学校生活への意欲をもつことができた。

あたたかい心 届けたよ！幼稚園児とフェスティバル



- 学 年 第2学年
- 内容項目 思いやり・親切
- 活動のねらい

友達と協力して自分たちの行事の計画・準備を行い、招待した幼稚園児たちに楽しんだり喜んだりしてもらえるように活動を工夫することができる。また、自分や友達のよさ、工夫して活動することの楽しみに気付くことができる。

子どもたちの反応

子どもたちは、自分よりも年下の子どもたちに”楽しんでもらおう”と準備の段階から張り切っていた。事前に幼稚園や保育園に行き、お店やゲームの紹介をしたり、交流をもったりして当日を迎えた。

フェスティバルで、子どもたちは、会を進めたり、ゲームの仕方が分かるように声をかけたりとお兄さんお姉さんとして頑張っていた。その日の日記には、フェスティバルを行えたことや小さい子どもたちに親切にできたことで満足感いっぱいの様子や気持ちが書かれていた。フェスティバルの後、幼児たちから「早く帖佐小学校に入学したいです。」というお礼の手紙をもらい、さらに喜んでた。

生活科「あきと あそぼう！」地域・家庭との連携



- 学 年 第1学年
- 内容項目 自然愛
- 活動のねらい

秋の木の实などを使って飾りを作る活動を通して、自然に対する優しい心を養う。



活動の概要

- 始良市役所農林水産課の方を講師として招き、松ぼっくりを使ったクリスマスツリーの作り方を指導していただいた。普段は見ることのできない大きな松ぼっくりに子どもたちは、興味・関心をもち、秋の素材を使って楽しく生活できることに気付くことができた。
- 保護者に支援ボランティアを募り、子どもたちのグループに入り製作支援をしてもらった。子どもたちも喜び、安心して活動することができた。

こころを 一つに～音楽発表会の取組～



- 学 年 第4学年
- 内容項目 友情・信頼、助け合い
- ねらい

健康的な仲間集団を育成するために、みんなでこころを一つにする活動を継続的に行い、友達のことを互いに理解し、信頼し、助け合うことの大切さに気付かせる。

子どもたちの反応

- 基礎的な発声練習を4月から朝の会で行った。早い時期から一つの行事に向けての目標をしっかりと決めて、その目標を達成するために継続的に行った。
- 音楽発表会の練習では、楽器の準備や片付けまで、子どもたちで行わせ自主性を身に付けさせた。
- 発表会に向けての練習を通して、友達を思いやる気持ちが高まり、普段の生活でもこまっている友達に声をかける様子が多く見られるようになった。

だれかのために できること



- 学 年 第5学年
- 内容項目 奉仕
- 活動のねらい

子ども達の身近にいる高齢者や特別老人ホームにいる高齢者と交流する体験を通して、地域・社会が様々な人によって構成されていることに気付くことができる。

子どもたちの反応

- ふれあい活動を楽しむことで、高齢者が様々な知恵や知識をもっていることや、地域には自分達を見守ってくれている人がいることに気付くことができた。
- 訪問では、施設にいる高齢者に接することで、自分たちにもできることがあることを知り、様々な手伝いで役に立てるということを実感した。そして、できる喜びが自己有用感を高めることにもつながった。

小さな一歩を見つきたい～学校と家庭をつなぐ学級通信～

- 学 年 特別支援学級
- 内容項目 明朗
- 家庭との連携の工夫



週に1回の通信や毎日の連絡帳の中で、学校での様子をできるだけ伝えることにより、支援の方向性を確認し合い、よりよい支援に心掛ける。

特別支援教育の視点から豊かな道徳心を養う工夫

交流学級の中では、集中しにくいことも多い子どもたち。あるいはどうしても自分の思いを優先してしまいトラブルにつながる子どもたちに対し、個々に合わせた指示の仕方でも一人ひとりの自尊心を育てるとともに、友達の自尊心もまた傷つかないことを常に心がけさせる必要がある。そのため、交流担任、保護者との連携は欠かせない。まわりから見れば小さな成長でも、子どもたちにとっては大きな成長。子どもたちができるようになったことを少しでも伝えて、子どもも保護者も明るく生活できるように支援していきたい。

あなたが大切 みんなも大切 人権集会での取組



- 学 年 全学年
- 内容項目 友情、信頼
- 活動のねらい

全学年で人権について考えたり、異学年で触れ合う時間を設けたりして自分の存在も、友達の存在も大切にしようとする心情を育てる。学年の児童に親しみ、楽しい学校生活を送ろうとする心情を育てる。

子どもたちの反応

集会では、各学年の代表児童が、人権に関する作文を発表した。それぞれの児童が発達段階に応じた内容の作文を発表した。その内容については、全児童で考える時間をつくり意見交換を行い、人権に関する考えを深めることができた。また、お互いのことを知り合う仲間集めゲームを行い、交流を深めた。人権同和教育担当の教諭からの説話や歌も児童の心を温め、命の大切さやお互いの存在の大切さに気付くきっかけとなった。

いじめについて考えよう

- 学年 第6学年 ○ 内容項目 2-(3) 友情・信頼、助け合い
○ 資料名 いじめられて

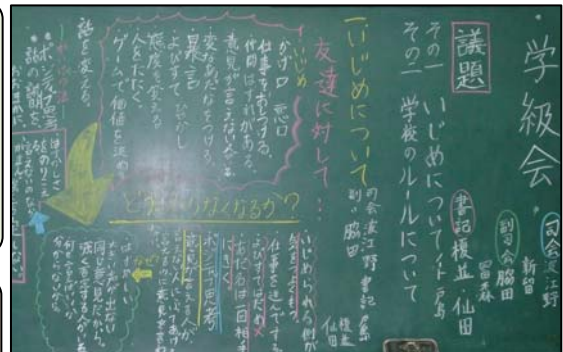
2学期がスタートし、子どもたちの友達関係も微妙に変化しているように感じた。また、2学期は行事の多い学期でもある。学級で協力して一つの目標を持って行事に取り組んで欲しいという担任としての願いがあるが、一方、学級の和の中になかなか入れない子どもがいるのも本学級の実態である。そこで、以下の項目で子どもたちにアンケートを実施して、学級活動や道徳の時間を使って、学級の課題解決に向けた取り組みを実践しようと考えた。

アンケートの実施（実態）

学級会による話し合い活動

道徳の時間

- 1 この学級で、今、いじめはあると思いますか。
- 2 この学級は、全員で協力して一つの目標に向かってがんばれると思いますか。
- 3 今、学級の中で最近あまり話をしていないと思う友達がいますか。
- 4 学級が、もっとまとまり、みんなで支え合う学級へなるために友達へアドバイスをしておくとしたら、どんなアドバイスをおくれますか。



全員で協力して、一つの目標に向かってがんばれていると全員が思っている一方、いじめがあると答えた子どもが2名おり、最近あまり話をしていない友達がいますと答えた子どもも16名いた。学級の人数が多く（39名）、関わりの薄い友達がいることや言葉遣い等から気持ちが上手に伝わっていないことから、いじめと思われることがあることもアンケートから分かった。

自分勝手に友達がこうだと決めつけしないで、自分から友達に話しかけることの大切さや友達の立場や気持ちを考えた言動が大切である等の意見が出された。

校訓「思いやり」の実現に向けたボランティア活動



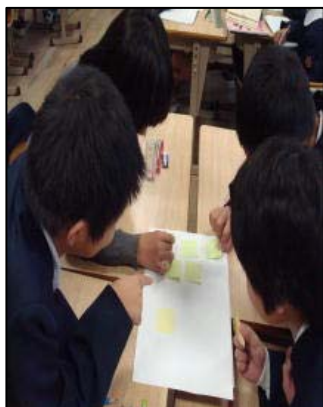
○ 学 年 第6学年

- 始良小学校では、「清掃奉仕作業週間」を設定し、日頃なかなか掃除が行き届かないトイレや溝の掃除をしています。また、このほか、6年生が学級ごとに曜日を決めて玄関から中庭の掃き掃除のボランティア活動をしています。

- 子どもたちは、ほうき目をきれいに立てる掃き方が上手になっており、学校中が気持ちよく朝を迎えています。

- 他者のために自分が何ができるのか？「道徳の時間」に学んだことを日常生活の場面で実践するために、体を実際に動かしながら自ら問い直す活動を、始良小学校の伝統として引き継いでいってほしいと願っています。

人権意識を高め、それを深める学習活動の工夫



付箋紙を使った話し合い活動や新聞記事活用

- 第5学年 人権学習
- 資料名「胸は赤々と燃えて」
～水俣病差別問題は終わっていない～
(「ひろく」より)

人権意識を高めるための工夫

- 1 話し合い活動を中心に行わせ、多様な考えにふれさせる。そして自分の考えを深めさせる。
- 2 付箋紙を使い、分かりやすく意見を集約させ、話し合いの基を作らせる。
- 3 新聞記事を効果的に提示し、昔の公害ではあるが、今も差別が続いている現実を理解させる。

人権に関する考えを深めた子どもの記述

- この世界から差別問題がなくなことを願います。
- もし自分が差別にあったらと思うとこわいです。でも、差別はなくすことができると思います。だからわたしはがんばります。
- 差別のこわさを知りました。これから、絶対に差別をしません。
- 差別をなくすには、どうしたらいいのか、よく考えたいです。

自尊感情を育む実践



始良市立帖佐中学校 《一人一芸の教育》

本校の特色ある教育活動の一つに「一人一芸（一自慢）の教育」がある。一つでも自分で誇れるものを身につけ、自尊感情を育むことをねらいとしている。

そのため、全校朝会における表彰式は全ての生徒を対象に行い、生徒たちは胸を張って優勝の報告や全校生徒からの賞賛の拍手を受けている。その姿は誇らしくもあり、舞台に立つことを一つの目標に努力する姿も見られる。また、学校だけでなく必ず定期的に表彰関係の紹介を載せ、保護者へも報告するようにしている。

全国学力・学習状況調査の結果でも、毎年「自尊感情の評価」は全国や県と比較しても高く、本校の特色ある教育活動の成果が表れているともいえる。

頑張っています帖佐中っ子。
学校だより第15号(10/12)で紹介した47名の本校生徒の活躍を報告します。

- ・第6回全国少年少女空手大会 個人2位 徳丸聖希
- ・第6回全国少年少女空手大会 団体優勝
- ・南日本新聞杯 南園小
- ・入道 小田原記章 中村雅美
- ・尾崎聖志
- ・県中学校陸上大会
- ・女子1年走り高跳び第2位 田中由香 1位25
- ・男子1年100m2位 米丸謙平 12秒44
- ・フリースタイルパークかごしま学生大会コンクール 学校賞
- ・知事賞 浦川真子 南日本新聞杯 米丸聖希
- ・花いっばい賞 隈元剛雄 新元あかり 有国英典
- ・入道 上原聖華 馬場友希
- ・山之内千尋
- ・県陸上競技大会
- ・第63回国体少年部大会
- ・男子団体優勝 植村 由年田、山元 満弘、大空
- ・女子団体優勝 中川、有野松木
- ・第2回県中学校体育大会陸上大会
- ・女子優勝 有野美穂
- ・男子3位 山内健次 植村由斗
- ・第14回国体少年部大会

部活動における道徳的实践力の育成



始良市立帖佐中学校
《部活動》

- 本校の部活動の加入率は 85%前後であり、部活動での指導が落ち着いた学校の雰囲気につながっている。



その部活動においては、技術や体力、競技力の向上ばかりではなく、日常や長期休業中に、校内外での活動においてボランティア活動に取り組んでおり、内面を磨き、自身を鍛える取組を実施している。

部活動での心身の鍛練が道徳的实践力につながっている。

【部活動における活動例】

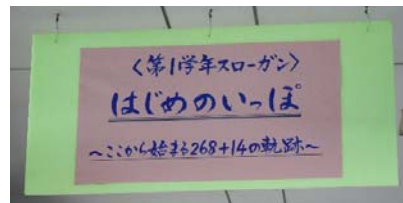
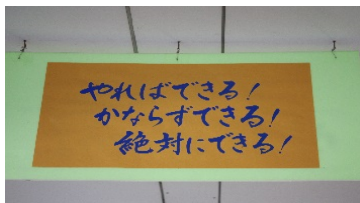
朝の清掃活動やあいさつ運動、休日の窓磨き、夏休みの花壇の水かけや除草作業、自治会敬老会での演奏、幼稚園での公演など

道徳心を育む校内設営



始良市立帖佐中学校
《校内設営》

- 校内には、学校長の筆による設営物がある。その内容は生徒への励まし、目指すべき姿など帖佐中生への思いにあふれ、あるべき帖佐中の姿を示し、生徒の心に語りかけている。



【マナー日本一】

他校と比べた日本一ではなく、日本一の気概であいさつや交通マナーの向上に挑戦しようとの積極的な取組である。

実践事例提供者名簿一覧



実践事例提供者一覧

学 校 名	職名	氏 名	学 校 名	職名	氏 名
柁城小学校	教諭	岡村 奈津美	帖佐小学校	教諭	福田 安奈
柁城小学校	教諭	河原橋 礼子	帖佐小学校	教諭	安原 和恵
柁城小学校	教諭	渡邊 健二	帖佐小学校	教諭	甲斐 京美
柁城小学校	教諭	二宮 進一	帖佐小学校	教諭	川端 智子
錦江小学校	校長	古川 正彰	帖佐小学校	教諭	稲盛 聡美
錦江小学校	教諭	黒田 輝樹	帖佐小学校	教諭	宗岡 寿賀乃
錦江小学校	教諭	藤迫 芳章	帖佐小学校	教諭	上水流 健彦
錦江小学校	教諭	木原 早和子	帖佐小学校	教諭	本田 華織
錦江小学校	教諭	三原 聡子	帖佐小学校	教諭	大重 智浩
錦江小学校	教諭	北山 剛正	帖佐小学校	教諭	月俣 員貞
錦江小学校	教諭	富永 那奈	帖佐小学校	教諭	永井 るみ
竜門小学校	教諭	阿多 恵子	帖佐小学校	司書補	松山 成子
竜門小学校	教諭	中園 恵子	建昌小学校	教諭	稲本 慎吾
竜門小学校	教諭	野田 里佳	建昌小学校	教諭	鮫島 圭介
永原小学校	校長	花山 則吉	建昌小学校	教諭	神田 祐幸
永原小学校	教頭	工藤 一裕	建昌小学校	教諭	飯塚 秀一
永原小学校	教諭	徳村 勇二	建昌小学校	教諭	福山 勝利
永原小学校	教諭	笠井 和子	建昌小学校	教諭	高橋 拓真
永原小学校	教諭	西田 瞬	三船小学校	教諭	安楽 知美
加治木小学校	教諭	井手上 勉	三船小学校	教諭	奈良 憲佑
加治木小学校	教諭	江平 佳代	三船小学校	教諭	新屋敷 義介
加治木小学校	教諭	持留 将雄	三船小学校	教諭	益田 さとみ
帖佐小学校	校長	田中 耕一郎	重富小学校	校長	島子 孝一
帖佐小学校	教諭	四元 大輔	重富小学校	教諭	田代 秀達
帖佐小学校	教諭	徳田 秀隆	重富小学校	教諭	浦村 正幸

学 校 名	職名	氏 名	学 校 名	職名	氏 名
重富小学校	教諭	田尻 佳美	蒲生小学校	教諭	岡村 將司
重富小学校	教諭	山村 理	蒲生小学校	教諭	恒松 友和
山田小学校	校長	下田 優子	漆 小 学 校	教諭	外園 純子
山田小学校	教諭	吉富 祐子	漆 小 学 校	教諭	福原 稔秋
山田小学校	教諭	西田 哲郎	漆 小 学 校	教諭	中村 理佳
山田小学校	教諭	下村 悦蔵	西浦小学校	校長	永田 葉子
山田小学校	教諭	吉村 美鈴	西浦小学校	教諭	日高 由佳里
山田小学校	教諭	渡邊 修宏	西浦小学校	教諭	平田 歩実
山田小学校	教諭	神田 百枝	加治木中学校	教諭	濱崎 渚
北山小学校	教諭	川口 拓透	加治木中学校	教諭	鎌田 次郎
北山小学校	教諭	川田 亜希子	帖佐中学校	教頭	感王寺 等
始良小学校	教頭	井上 貴文	重富中学校	教諭	中尾 三佳
西始良小学校	教諭	吉村 貴子	重富中学校	教諭	大村 勝
西始良小学校	教諭	川迫 美樹	山田中学校	教諭	羽生 秀
蒲生小学校	教諭	宮田 由紀子	山田中学校	教諭	田中 正史
蒲生小学校	教諭	生野 明美	山田中学校	教諭	是枝 睦美
蒲生小学校	教諭	池田 奈美	蒲生中学校	教諭	宮上 将也
蒲生小学校	教諭	安田 泰代	蒲生中学校	教諭	吉松 美穂
蒲生小学校	教諭	岩崎 直広			
蒲生小学校	教諭	池下 龍郎			
蒲生小学校	教諭	井上 新悟			
蒲生小学校	教諭	小川 夏菜子			
蒲生小学校	教諭	國生 利香			
蒲生小学校	教諭	上片平 麻美			
蒲生小学校	教諭	東 彰			

平成25年度

道徳教育総合支援事業／始良市モラリティ・インブループメント推進事業

始良市 教師力ブラッシュアップ 第1号

～写真で語る道徳教育の実践事例～

平成26年2月 発行

編集・発行

道徳の時間指導法開発委員会

始良市教科等部会道徳部会

始良市教育委員会

